

[第1号議案]

## 1-1. 2014年度事業報告書

1. 概況：重点活動
  2. 会員の異動状況
  3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
  4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）
  5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）
  6. 実施事業3：学術講習会の開催（定款第4条1項1号および2号）
  7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）
  8. 実施事業5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第4条1項1号および2号）
  9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）
  10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）
  11. その他：関連学協会との連絡および協力（定款4条1項6号）
  12. 法人運営
- 付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）
- 付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧
- 付3. 刊行物（会誌・論文誌・図書等）一覧
- 付4. 国際会議一覧
- 付5. 表彰等
- その他・附属明細書

# 2014 年度 事業報告

## 1. 概況および重点活動

少子高齢化や企業研究開発活動の縮退などにより、従来型の学会運営が厳しさを増している中、本学会も、経営マインドに基づく抜本的な改革が求められている。2013 年度より、喜連川会長の強力なリーダーシップの元で、安定した学会運営、会員増、新たな会員価値の創造、社会への貢献を目指して、種々の改革や新たな取り組みを行った。今年度は、この取り組みの 2 年目にあたり、体制面の改革は軌道に乗り、その効果として、会員増や新たなサービスなど具体的な成果も出始めている。

特筆すべき改革や成果としては、下記のものがあげられる。

- 学生無料トライアル制度その他の施策により、長年減少を続けてきた会員数を 2 年連続で増加させることができた。特に今年度は、有料の会員数を増加に転じさせることに初めて成功した。
- 新世代担当枠の理事が着任し、新世代企画委員会などでの活発な若手の議論を主導した。ドワンゴ社、ニワンゴ社(ニコニコ動画)との提携および学会イベント中継とアーカイブ、全国大会での「IPSJ-ONE」講演会の成功、ジュニア会員制度の企画に貢献した。
- 女性理事、会員の活動活性化を目指して理事選挙制度改革や女性会員増を目指した取り組みを行った。会誌編集委員会女子部の連載などの具体的成果が出始めている。
- 高校の教員免許更新講習会を開催した。
- 実務家、IT プロフェッショナル向け新サービスとして、認定情報技術者制度 (CITP) による個人認証の本格運用開始。これは日経 IT Pro の記事でも好意的に取り上げられた。
- 理事会で活発な議論および意思決定が行われ、タイムリーな各種施策実行に直結するようになった。
- 長期戦略担当枠の理事が着任し、2 年の理事任期を超えた中長期戦略が議論されるようになった。成果は中長期を見据えて表れると期待している。
- 会員サービスの向上および柔軟な学会運営のための情報基盤整備の一環として、学会情報システムのリニューアルおよび会員活動のためのプラットフォーム化を推進した。

この他にも、グローバル化を目指した取り組み、学会コンテンツアクセスのサイトライセンス、国の政策や方針に対する活発なパブリックコメントの発信、国内外学会との連携などで多くの成果が出始めている。

また、調査研究活動、論文誌編集活動、学術講習会の開催、標準化活動においても、新たな取り組みに挑戦しつつ、例年通りの成果を上げている。財務的には、種々の新たな取り組みを行ったが、種々のコスト削減の施策を行い、当年度黒字を達成した。

### 1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① 若い世代の柔軟な発想を運営に反映させるために「新世代理事」を設けた。
- ② 長期的学会運営戦略を検討し、これを実現させるために「長期戦略理事」を設けた。
- ③ 会員の真のニーズをタイムリーに把握できる CRM 基盤「INPACT (Investigate Personal Activity) システム」の整備を推進した。
- ④ 第三者機関であるアドバイザーボードからの提言を適宜諸事業へ反映した。

- ⑤ 女性が活躍できる学会を目指し、女性理事の倍増、研究会や編集委員会の女性委員増、女子学生会員の積極勧誘等を推進した。
- ⑥ 学会の魅力向上・価値の向上を目指して策定した中長期計画の定期的な見直しを継続し、計画に基づいた諸施策を推進した。
- ⑦ 学会活動の趣旨に賛同頂ける企業との連携強化を推進した。

## 1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代担当理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」を設け、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込んだ。ドワンゴ社、ニワンゴ社（ニコニコ動画）と公式提携し本会の公式ニコニコチャンネルを2015年3月よりスタートさせた。また、第77回全国大会より研究会から推薦の一押し研究者から19名を厳選し、プレミア感のあるステージとして「IPSJ-ONE」講演会を行った。
- ② 2012年度に導入した「学生無料トライアル会員制度（試行）」について拠点校の拡充、支部への協力依頼等、より強力に推進し当初目標としていた制度適用者1,000名に対して、717名の方に本制度を活用頂いた。更に、次年度からは現在の制度を発展させ名称を「ジュニア会員制度（試行）」として、申込をオープン化すると共に、制度の利用対象も下は小学生から上は大学学部3年生迄に拡大し推進する。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催した。学生や若手を対象とした賞を授与した。iDB Workshop 2014では、若手研究者の研究テーマに関してメンターを招いて討論を行った。

## 1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の3領域に分けて、領域委員会を3回ずつ開催し、研究会間での情報交換を促した。
- ② 調査研究運営委員会、政策提言委員会、若手研究者の会が連携し、国の政策および方針に関する「サイバーセキュリティ」、「ビッグデータの活用」、「ポスト「京」」「情報通信政策の在り方」などに関するパブリックコメント募集に対して、各専門の研究分野と連携して積極的な提言活動を行った。
- ③ 個々の研究会活動を超えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクト（期間2014年11月1日～2015年10月31日）を募集し、国際会議支援、女性研究者支援などの7件（総額151万円）を採択し支援することとした。また、複数の研究会の共催による「DICOMシンポジウム」、「Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI)」、「インタラクシオン」などを開催した。

## 1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）のインパクトファクタ取得について、再申請に向けて諸対応を検討、促進した。トランザクション CVA についてはインパクトファクタの取得の申請手続きを行った。
- ② 査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにする必要性と、それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ、国際的に広く使われている商用査読管理システムの精査と試行、PRMS に替わるオープンソースの査読管理システム設計・開発の検討を行った。
- ③ 研究会活動を中心に、国際会議の主催や共催を推進した。情報環境領域プロジェクトとして、ACM CHI や International Workshop on Security への参加費・旅費の援助を行った。

- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ、これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討した。IEEE Computer Society との間で相互協力・友好関係を築くために、2015 年から 2016 年 12 月 31 日までの期間で会費の相互割引や新サービス提供などを定めた協力協定 (MOU) を結んだ。
- ⑤ アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (The Korean Institute of Information Scientists and Engineers), インド CSI (Computer Society of India) との中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

### 1.5 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化

- ① 高度 IT 人材の資格制度である「認定情報技術者制度」について、個人を対象とする認証審査の本格運用を実施し、28 名の認定情報技術者が誕生した。また、企業の社内資格制度を対象とする認定審査の制度試案を公表するとともに、5 社の協力を得て試行を実施した。
- ② 2 つの新設 IT フォーラムを立ち上げるなど、ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期集中セミナー、IT フォーラムなど、各種の実務家・IT プロフェッショナル向け活動を推進した。
- ③ 情報処理推進機構 (IPA), 情報サービス産業協会 (JISA), 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS), 電子情報技術産業協会 (JEITA), 科学技術振興機構 (JST) などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献した。

### 1.6 教育活動の充実

初等中等教育、専門学校そして大学などにおける情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

- ① 情報教育カリキュラムの策定
- ② アクレディテーション (教育期間における技術者教育プログラムの認定。JABEE からの委託)
- ③ 高校の教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における情報科目提言、大学情報入試全国模擬試験実施、教育シンポジウム・コンテストの運営と後援。

### 1.7 会員サービスおよび広報の充実

- ① 会員サービスの向上と柔軟なサービス運営を提供するために会員の真のニーズをタイムリーに把握できる CRM 基盤「INPACT (Investigate Personal Activity) システム」の整備を推進した。
- ② オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、サイトライセンス、会誌並びにデジタルプラクティスの Apple Newsstand 掲載など、新しいサービス提供形態を推進した。
- ③ 今年度 4 月より開始した大学向けサイトライセンスサービスに引き続き、2015 年 4 月から企業向けサイトライセンスサービスを開始することを決定した。
- ④ 昨年度から策定していたシニア会員制度の運用を開始した。今年度は 261 名のシニア会員を登録した。

## 2. 会員の異動状況

会員種別	会員数		増減数 ①-②	備考：2014年度の異動内訳				
	① 2014 年度末	② 2013 年度末		入会		退会		資格 喪失
名誉会員	36	33	3	3	正会員から異動			
正会員	16,111	16,306	-195	503 759	学生会員から異動	998 3	名誉会員に異動	456
学生会員	3,477	2,975	502	1,266 717	学生トライアル	705 759	正会員に異動	17
個人会員 計	19,624	19,314	310	3,248		2,465		473
賛助会員 (口数)	223 (510)	228 (519)	-5 -(9)	9 (9)		14 (18)		

\*2014年度期末正会員数には終身会員444名を含み、学生会員数には学生無料トライアル制度適用の533名を含む。

## 3. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

総会、理事会をはじめ、法人運営、調査研究活動、人材育成活動、事業活動、機関誌／出版活動、標準化活動、国際活動に関する各種委員会を開催した。詳細は付録1（p.18～p.32）に掲載する。

## 4. 実施事業1：調査研究活動（定款第4条1項1号および2号）

### 4.1 研究発表会、シンポジウム・講習会等 [所掌：調査研究運営委員会および各領域委員会]

38研究会、2研究グループにより活動し、研究発表会（155回）およびシンポジウム等（22回）を開催した。詳細は付録2（p.33～p.39）に掲載する。

※前年度参考：38研究会、2研究グループ、研究発表会156回、シンポジウム22回

#### [1] コンピュータサイエンス領域

10研究会により、研究発表会（44回）、シンポジウム等（8回）を行った。それぞれの研究会が積極的な活動を行っているが、中でも特記事項は次の通りである。

- ① 4研究会\*が合同で、115名の参加者を集め「Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI) 2015（2014年1月26日～28日、つくば国際会議場）」を開催した。  
※計算機アーキテクチャ（ARC）、システムソフトウェアとオペレーティングシステム（OS）、ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）、プログラミング（PRO）各研究会
- ② 優秀な若手会員を顕彰するため、2014年度コンピュータサイエンス領域奨励賞を14名に授与した。
- ③ CS領域奨励賞の一環として組込みシステムシンポジウム ロボットチャレンジコンテストを企画した（開催場所：国立オリンピック記念青少年センター、開催日時：2014年10月22日～24日）。
- ④ システム・アーキテクチャ研究会（ARC）が研究会名称を改定した。

## [2] 情報環境領域

16研究会により、研究発表会（62回）、シンポジウム等（10回）を行った。特記事項は次の通りである。

- ① 領域全体の活動として、領域共通の積立金を活用したプロジェクトを募集し、学生プログラムコンテスト、国際会議支援、女性研究者支援などの7件のプロジェクト（総額151万円）を助成することとした。昨年度採用したプロジェクトの一部は成果報告を行い、領域の活性化に貢献したことを確認した。
- ② 10研究会\*が合同で、ネットワークに関する研究分野を対象に、研究者間の深いディスカッションと交流の場となるよう合宿形式による「DICOM02014シンポジウム（2014年7月9日～11日、新潟）」を開催した。参加者は411名であった。  
※マルチメディア通信と分散処理（DPS）、グループウェアとネットワークサービス（GN）、モバイルコンピューティングとユビキタス通信（MBL）、コンピュータセキュリティ（CSEC）、高度交通システムとスマートコミュニティ（ITS）、ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）、インターネットと運用技術（IOT）、コンシューマ・デバイス&システム（CDS）、セキュリティ心理学とトラスト（SPT）、デジタルコンテンツクリエイション（DCC）各研究会
- ③ 5研究会\*が合同で「インタラクシオン2015シンポジウム（2015年3月5日～7日、日本科学未来館）」を開催した。実システムのデモを通じて発表者と参加者との双方向的なコミュニケーションを重視したインタラクティブ発表などは毎年好評を博し、今回も700名を超える参加者を得て盛会であった。  
※ヒューマンコンピュータインタラクシオン（HCI）、グループウェアとネットワークサービス（GN）、ユビキタスコンピューティングシステム（UBI）、デジタルコンテンツクリエイション（DCC）、エンタテインメントコンピューティング（EC）各研究会
- ④ 高齢社会デザイン研究会（ASD）の新設を承認した。ドキュメントコミュニケーション研究会（DC）、モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム研究会（MBL）が研究会名称を改定した。

## [3] メディア知能情報領域

12研究会、2研究グループにより、研究発表会（49回）、シンポジウム等（4回）を行った。

- ① ゲーム開発者イベント「CEDEC2014（Computer Entertainment Developers Conference；9月2日～4日 パシフィコ横浜）」に連携して、ゲーム情報学研究会とエンタテインメントコンピューティング研究会がパネルディスカッションを実施した。
- ② 複数研究会で研究発表会の動画中継を行った。
- ③ 音楽情報科学研究会を中心に、情報学広場の論文にビデオ動画や音素材等のマルチメディアコンテンツを掲載できるよう検討した。
- ④ アクセシビリティ研究グループ（AAC）の新設を承認した。

## 4.2 その他

### (1) 表彰

優れた研究発表および業績等に対して、山下記念研究賞、長尾真記念特別賞、喜安記念業績賞、若手奨励賞を贈呈した。詳細は付録5（p.47～p.49）に掲載する。

---

## 5. 実施事業2：人材育成（定款第4条1項4号）

---

初等中等教育を含む情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施した。

## 5.1 情報教育カリキュラムの策定 [所掌：情報処理教育委員会]

### (1) 次期カリキュラム標準 J17 の策定開始

前年度の検討結果である次期カリキュラム標準 J17 ならびに主として人材像と評価軸に関するアセスメントの基幹方針に基づき、J17 の策定を進めた。ワーキンググループ新設並びにキックオフイベントを開催し、情報処理コミュニティに対して広く興味を喚起し、多数の技術者をカリキュラム策定の議論に巻き込みカリキュラムを具体化した。

### (2) 情報専門学科におけるカリキュラム標準 (J07) のフォローアップ

前年度に引き続き、J07 の普及・改訂、教科書など教材の整備・提供・普及などを継続するとともに、J07 のフォローアップ活動により浮かび上がった課題や対策は J17 の具体化に反映させることとした。

### (3) 初中等教育での情報教育支援

「会員の力を社会につなげる」研究グループ(SSR)との連携をさらに強め、高校の情報科教員の養成支援、教材開発や出張授業などを通じて教育現場支援を推進した。また、他学協会とも連携しつつ、情報教育カリキュラムの観点から現場への支援・連携を進めた。

## 5.2 アクレディテーション (技術者教育プログラムの認定) [所掌：情報処理教育委員会]

アクレディテーションによる大学・大学院専門教育の質的向上の推進のため日本技術者教育認定機構 (JABEE) 委託の認定評価を継続した。関連して、認定校・受審予定校のコミュニティの育成、専門職大学院認証評価などの活動支援を行った。また、JABEE に協力して情報専門系課程教育の質保証に努め、ソウル協定による国際水準の教育を目指して教育改善を推進した。

## 5.3 資格制度 [所掌：高度IT人材資格検討WG, 個人認証試行委員会, 企業認定制度設計WG]

高度 IT 人材資格「認定情報技術者 (CITP)」の個人認証については本格運用を開始した。資格更新に必要な CPD についても検討を行った。企業認定については、制度設計を完了させるとともに、試行を実施した。また、技術士会等関連組織との連携強化を図った。

### (1) 個人認証制度

- ① 本番運用開始に関するプレスリリースを行った (6 月)。
- ② 2013 年度の試行結果を制度設計にフィードバックした後、11 月から 12 月にかけて申請を受け付け、1 月から 3 月にかけて審査を行った結果、28 名の CITP が誕生した。
- ③ 申請受付および審査支援を行う情報システムを開発した。

### (2) 企業認定制度

- ① 制度試案 (認定基準, 審査方法等) を公表した (4 月)。
- ② 一部企業の協力を得て試行を実施し、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社, 株式会社日立製作所およびそのグループ会社, 富士通株式会社およびそのグループ会社, 日本電気株式会社およびそのグループ会社, 並びに三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社の社内資格が審査に合格した。

### (3) その他の関連活動

- ① CITP の資格更新に必要な CPD (継続研鑽) に関する規定を公表した (12 月)。
- ② CITP に認定された技術者のコミュニティを立ち上げた。
- ③ 技術士 (情報工学) の CITP 認定に関する検討, CPD 対象セミナー等の相互連携, CITP 審査員の委任等について技術士会と覚書を締結し, プレスリリースを実施した (8 月)。
- ④ ソフトウェアジャパン 2015 の「高度 IT 人材育成フォーラム」で「IT 人材育成に関わる様々な取組みと情報処理学会の貢献」のセッションを開催した (2 月)。また, 第 77 回全国大会で「国際的に通用する高度 IT 技術者の育成・評価を推進する戦略とは？」セッションを開催した (3 月)。
- ⑤ IFIP/IP3 のボードメンバー会議 (9 月, ウィーン) に出席し, CITP の取り組み状況について発表した。

- ⑥ ISO/IEC JTC1/SC7/WG20 の会議 (6 月, シドニー; 11 月, ビーゴ) に出席し, 関連国際標準 ISO/IEC 24773 の改訂に関する討議等に参加した。

#### 5.4 その他 [所掌: 情報処理教育委員会]

##### (1) 教育シンポジウムならびにコンテストの運営・後援等

教育に関するシンポジウムならびにコンテストを企画運営した。高校教科「情報」に関するイベントは、都道府県教育委員会等の協賛を得て、高校教員が参加しやすい環境づくりに配慮するとともに、会員増に結び付けるようにした。また、大学生、高校生等を対象とするコンテストの後援(表彰活動)等を推進し、若い世代への学会のプレゼンスを向上させ会員増の活動に結び付けた。

##### (2) 大学入試科目に「情報」を導入するための活動

各大学における入試科目「情報」の採用を推進する「情報入試WG」および情報入試研究会、「情報」を入試科目として採用している大学、「情報」の教員等と強く連携して、大学情報入試の全国規模模擬試験を実施した。(第3回大学情報入試全国模擬試験 受験者数約2500名, 個人受験 2015/2/21(土) [東京(明大)・名古屋(名古屋文理大)・大阪(大阪電通大)] / 団体受験 2015/2/7(土)~3/14(土) [23校])

##### (3) 学会誌への教育関連記事の掲載

会員の情報教育への関心をより高め、初中等教育現場関係者の学会活動への参加を促すよう、学会誌に教育関連連載記事を企画・編集した。

##### (4) 技術士試験の制度改定の活動

技術士会情報工学部会へのCPDプログラムの企画提案を行なった。情報処理技術者試験(高度)から技術士二次試験への連動にかかわる制度改定の活動を行なった。

##### (5) 教員免許更新講習支援への着手

現役教員向けに、「情報」に関する教員免許更新講習の実現に向けてWGを設置し、関係機関への申請および実施運営方法を確立した。本講習を学会として実施することで、現状の「情報」に関する更新講習不足を補い、高校の情報科教員の養成を支援した。高校の教員の会員増加にもつなげることができた。

##### (6) 表彰

高校生および高専生等を対象とするコンテストの後援と若手奨励賞の授与を行った。また、優れた教育の実践等を顕彰するため優秀教育賞を贈呈した。

---

## 6. 実施事業3: 学術講習会の開催(定款第4条1項1号および2号)

---

※各開催状況の詳細は付録2(p.39~p.40)に掲載する。

### 6.1 全国大会/FIT

#### (1) 第77回全国大会 [所掌: 全国大会組織委員会]

第77回全国大会を2015年3月17~19日に京都大学吉田キャンパスで開催した。本大会では、前回と同様に通常の一般セッション、学生セッションに加えて大会招待講演企画、大会イベント企画、展示会などのイベントを開催し、「大会イベント企画限定聴講参加(参加費無料)」の参加枠を設けた。

なお、今回初の試みとして、ニコニコ動画によるメイン会場のライブ配信(来場者数:15万人)や、「IPSJ-ONE」と題した情報処理学会全体の研究をTED風トークで俯瞰するイベントを行った。また、参加者サービスの向上を目指して託児所の設置、視覚障害者向け情報保障(手話と要約筆記(字幕・ノート



テイク)を実施した。さらに、新たな会員獲得のため、非会員で全国大会に申込みをした方の中で希望者には1年間の無料会員サービス提供を試みた。講演件数は1,401件(一般セッション306件,学生セッション1,094件),総参加者数は3,610名であった。

※前年度参考:講演件数1,378件,総参加者数3,030名

全国大会の併設イベントとしてリクルートホールディングス社主催の「春の情報処理祭り in 京都」に後援と企画協力を行った。参加者300名のうち,147名が学生会員として入会した。

**(2) 第13回情報科学技術フォーラム (FIT2014)** [所掌:FIT運営委員会]

FIT2014(第13回情報科学技術フォーラム)を,2014年9月15~17日に筑波大学 筑波キャンパスにおいて開催した。講演件数は501件,総参加者数は1,223名であった。

※前年度参考:講演件数660件,総参加者数1,301名

**(3) 表彰** [所掌:全国大会組織委員会]

優れた発表を顕彰するため,全国大会優秀賞・奨励賞などを贈呈した。詳細は付録5(p.48)に掲載する。

## 6.2 セミナー/ソフトウェアジャパン/プログラミング・シンポジウム

**(1) 連続セミナー2014** [所掌:セミナー推進委員会]

「モバイル・クラウド時代のIT新潮流を読み解く」を全体テーマとし,年度内に全6回開催し,本会場(東京)延べ384名,遠隔会場(大阪)延べ78名の参加があった。

※前年度参考:全6回,東京/大阪延べ参加者数845名

**(2) 短期集中セミナー** [所掌:セミナー推進委員会]

年度内に,次の短期集中セミナーを開催した。

①「画像・音声符号化伝送技術~最前線と標準化動向~」(9月),参加者:61名。

②「Exciting Coding!2014~ITスペシャリストが語る「つながる」開発の面白さ~」(12月),参加者:65名。本年度3回目となり定着した。

③「情報セキュリティ/プライバシーと国際標準~対策のための枠組みとその活用~」(2月),参加者56名。

**(3) ソフトウェアジャパン 2015** [所掌:ITフォーラム推進委員会]

「ICTによるイノベーションの創出~スマートシティからオリンピック・パラリンピックまで~」をタワーホール船堀にて開催した。

テーマにもとづいた「メインセッション(午後開催)」を有料化,ITフォーラムならびに関連団体がそれぞれに企画をする「ITフォーラムセッション(午前開催)」は無料,という形で一日を午前と午後に分けて実施した。

総参加者数459名(メインセッション200名,ITフォーラムセッション402名,重複含む)

スポンサー:7団体,サポーター:29団体,展示:2団体

※前年度参考:参加者数504名,スポンサー:6団体,サポーター:31団体

**(4) プログラミング・シンポジウム** [所掌:事業運営委員会]

年度内に3回(第56回プログラミング・シンポジウム,夏のプログラミング・シンポジウム,第47回情報科学若手の会)のシンポジウムを開催した。若手を中心に広く参加者を募ることを目指し,夏のプログラミング・シンポジウムについては,昨年同様,参加費無料,日帰り開催とした。

### 6.3 ITフォーラム [所掌：ITフォーラム推進委員会]

- ① ソフトウェアジャパン2015のITフォーラムセッションにおいて、関連団体\*との連携イベントを推進した。

※情報処理推進機構（IPA），先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）

- ② 実務家向け論文誌「デジタルプラクティス」ならびに高度IT人材資格検討WGとの連携を強化した。
- ③ 「コンタクトセンターフォーラム」では5月に「コールセンターサミット in 福岡」，11月に「コールセンター/CRM デモ&コンファレンス in 東京」を開催し，「IT未来人材フォーラム」では，10月に「IT教育ミニシンポジウム～中高生にプログラミングを教える～」と題したセミナーを開催した。
- ④ 成果報告と評価を実施した。ITダイバーシティフォーラムは見直しが必要である。

### 6.4 コンピュータ将棋とトッププロ棋士との対局 [所掌：「あから」強化推進委員会]

- ① 新あからの構成の候補となる強豪ソフトについて改良の状況をコンピュータ将棋選手権やゲームプログラミングワークショップなどの機会を利用して確認した。
- ② 新あからの計算機環境について候補の調査を行い，使用の可能性について検討した。
- ③ 日本将棋連盟の関係者と，トッププロ棋士とコンピュータの対戦の進め方について面談して意見交換を行って周囲状況を確認した。残念ながら対戦のめどがたっていない状況である。

### 6.5 AIプログラミングコンテスト [所掌：プログラミングコンテスト委員会]

- ① 学生および若手技術者の育成を目的として，世界規模の対戦型プログラミングコンテスト「Samurai Coding2014-15」を開催した（オンライン予選と決勝戦）。1月11日を締切としたオンライン予選には，前回2013年度開催時を遥かに上回る100チーム超の参加があった。
- ② 決勝戦は，予選を勝ち抜いた国際：2チーム，国内：14チームの全16チーム21名で，2015年3月18日（水）に京都大学吉田キャンパスで第77回全国大会イベント企画として開催した。また決勝戦を全国大会参加者が自由に観覧できるようにすると同時に，懇親会には予選敗退チームも招待し，参加者およびスポンサーを含む関係者間の交流とプログラミング学習およびコンテストの取り組みの認知向上・広がり寄与するように努めた。

### 6.6 各支部による支部連合大会，講習会等の開催 [所掌：各支部]

支部連合大会，講習会，講演会，セミナー，国際ワークショップ等，各支部において活発に活動がなされた。また，各支部で開催している連合大会について，いくつかの支部ではその大会名称に「情報」を加えて開催がされた。詳細は，付録2（p.41）および付録5（p.50）に掲載する。

---

## 7. 実施事業4：会誌の刊行（定款第4条1項1号および2号）

---

※発刊状況の詳細は付録3（p.42）に掲載する。

### 7.1 会誌「情報処理」 [所掌：会誌編集委員会]

#### (1) コンテンツ

- ① 会誌「情報処理」第55巻5号から第56巻4号まで計12号（本文1,453ページ，広告48.5ページ，平均発行部数18,969部/号）を編集発行した。
- ② 塚本新編集長のもと「読まれる学会誌」を目指して，会員サービス，および会員増という観点から編集を行い，時宜を得た特集，連載，単発記事が提供できるよう努めた。

- ③ 女性会員増への施策として女性編集委員による連載「会誌編集委員会女子部」の連載を開始した。
- ④ 学会 Web との連動企画として、昨年に引き続き 9 月号「研究会推薦博士論文速報」では、本誌に簡略版、Web にその詳細を掲載した。
- ⑤ 新たに「特別解説」を設け、時事性・話題性の高い記事をスピーディに掲載した。その他、著名人による「巻頭コラム」、シニアコラム「IT 好き放題」、連載「古機巡礼/二進伝心」、コラム「ビブリオ・トークー 私のオススメー」、教育コーナー「ぺた語義」を引き続き掲載し、概ね好評を得た。
- ⑥ 表紙の絵柄を季節ごとに変更、描かれている囲碁の棋譜も毎号変えるなど、読者の興味を惹くような表紙デザインを工夫した。

## (2) その他、広報・宣伝の充実および編集体制の改善

- ① 冊子版に掲載された広告を Web カタログとして学会 Web 上に掲載するサービスを継続した。
- ② 学生向けの「就職情報」については順調な掲載がなされた。
- ③ メールニュースをより魅力的なものとするため、昨年に引き続き「理事からのメッセージ」を掲載した。
- ④ Apple Newsstandで会誌電子版の販売を開始した。
- ⑤ FIT2014 および全国大会において、会誌関連イベントを開催した。
- ⑥ 日経 BP 社との連携の一貫として、学会からのメッセージに企業の DM を同封した。

---

## 8. 実施事業 5：論文誌・学術図書等の刊行（定款第 4 条 1 項 1 号および 2 号）

---

※各発行状況の詳細は付録 3（p. 42～p. 44）に掲載する。

### 8.1 論文誌（ジャーナル/JIP/トランザクション/デジタルプラクティス）

#### (1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊） [所掌：ジャーナル編集委員会]

##### ① 論文の充実（論文投稿数の増加に向けた取り組み）

論文誌（一般論文、特集号論文）の月刊体制を維持し、297 編（含 JIP preprint 86 編）が掲載された。招待論文を 11 編および特集号を 16 号発行した。新しい特集号としてジャーナル/JIP 編集委員会幹事会が提案母体となる「学生・若手研究者論文特集号」を企画し、論文投稿を促進すると同時に、第一著者は原則として本学会会員に限定することで会員増にも貢献した。なお、本会論文誌ジャーナルは Google Scholar の h-index において日本語出版物の第 1 位に再びランキングされた。

##### ② 論文査読管理の改善

現行の査読管理システム PRMS の運用を見直し、新システムへの移行の可能性を具体的に検討するため、一部の特集号で既存商用システム Editorial Manager を試行的に利用した。別の商用システム Scholar One Manuscript でもテストを行ない引き続き検討することとした。また、査読の遅延に対する対応ルールを改善し、論文審査期間の短縮をはかった。二重投稿、剽窃等の問題に対する規定等の記述を見直し、処分規定や著者への説明を整備した。

##### ③ 電子化を有効活用した改善

電子図書館上に各論文の PDF ファイルダウンロード数を掲示させた。また、マルチメディアファイルを含む論文については、MUS 関連の特集で査読時はシステム外で対応しアウトプットは情報学広場で実施することとなった。

#### (2) 「Journal of Information Processing (JIP)」 [所掌：JIP 編集委員会]

年間論文採録数の目標 85 編に対して採録件数は 65 編になり、2015 年 1 月号から隔月刊行に移行した。

和英混載トランザクションで採録が決定した英語論文を JIP にも掲載できるように制度を整備し、2015 年より適用した。また、引用数増加が期待できる「招待論文」および「サーベイ論文」をジャーナル/JIP の論文種別として明示的に規定し、査読基準等を整備した。優れた英語論文の投稿を喚起する施策の一つとして、推薦論文の英語化をサポートする制度を導入した。

### (3) トランザクション (10 誌) [所掌：各トランザクション編集委員会]

研究会が編集した「情報処理学会論文誌 (トランザクション)」10 誌を年度内に計 31 号発行した。和英混載のトランザクションに採録された英語論文は JIP に掲載することを検討し、一部のトランザクションについて 2015 年発行分から実施した。英文トランザクション CVA がインパクトファクタ取得申請手続きを行なった。また出版社をシュプリンガーに変更することを決定し手続きを開始した。

### (4) 実務活動の論文誌「情報処理学会デジタルプラクティス」[所掌：デジタルプラクティス編集委員会]

① 論文誌「デジタルプラクティス」通巻 18 号～21 号の特集号企画と編集、投稿論文の審査・共同推敲を行った (招待論文 21 編, JISA 招待論文 3 編, 特集号投稿論文 1 編, 解説 1 編, 一般投稿論文 6 編を掲載)。

② デジタルプラクティス (以下, 本項では DP) 著者に, より強い動機をもってクオリティの高い論文を執筆していただくために, DP アワードを選定し, ソフトウェアジャパン 2015 にて授賞式を行った。

③ 新しい施策として, 以下を行った。

- ・副委員長ポスト (企画担当, 審査担当) の設置 (4 月)
- ・ITpro への転載開始 (6 月)
- ・DP レポート創刊 (9 月)
- ・Apple Newsstand での無料配信開始 (10 月)
- ・女性編集委員の強化

④ 次のような関連活動との連携を試みた。

- ・第 77 回全国大会でイベント企画「デジタルプラクティスライブ」を開催した。
- ・会誌編集長, ジャーナル委員長との対談を行い, 会誌 Vol. 56 No. 1 に特別鼎談「編集長 3 人は語り尽くせなかった」を掲載した。
- ・認定情報技術者 (CITP) 審査員に DP 査読委員を推薦した。
- ・実務家へのアプローチとして JISA, JUAS, IPA へ冊子の贈呈を行った。

⑤ DP 掲載論文から電気科学技術奨励賞 (オーム賞) の候補を推薦し, 受賞した。

### (5) その他

各誌の優れた論文を顕彰するため, 論文賞, DP アワード等を贈呈した。詳細は付録 5 (p. 46～p. 47, p. 51) に掲載する。

## 8.2 専門誌：教科書シリーズ [所掌：出版委員会]

新しい体制で既企画のメンテナンスを中心に活動を行った。

## 8.3 歴史資料の保存・公開 [所掌：歴史特別委員会, コンピュータ博物館小委員会]

① 2014 年定時総会 (2014 年 6 月 4 日, 東京理科大学) 開催時に東京理科大近代科学資料館に於いて情報処理技術遺産「微分解析機」の動態展示を行った。

② 「情報処理技術遺産」7 件の関連調査と認定を行った (情報処理技術遺産累計：78 件, 分散コンピュータ博物館累計：8 件)。詳細は付録 5 (p. 51) に掲載する。

③ 「コンピュータ博物館」の充実を図った。

(4 月～3 月のアクセス数 643, 098 件 (日英あわせて), 転載数 33 件)

④ オーラルヒストリー 4 件を会誌に掲載した。

- ⑤ 全国大会で特別セッション「私の詩と真実」および分散コンピュータ博物館「KCG コンピュータミュージアム」の見学ツアーを開催した。
- ⑥ 歴史的価値のある機器の譲渡申込みへの対応など遺産の保存につながる活動を行った。

#### 8.4 電子図書館事業の推進 [所掌：デジタルコンテンツ事業検討委員会]

- ① 2014年4月より大学向けサイトライセンスサービスを開始し36校からの申込があった。また、企業向けサイトライセンスサービスを2015年4月より開始することを決定し、各企業へ周知を行うとともに、申込み受付を開始した。
- ② サイトライセンス機能のユーザビリティ向上、検索速度向上、目次配信機能の追加等、会員からの要望に応え、情報学広場のサービスの充実を図った。
- ③ 研究会と連携し、マルチメディアコンテンツを含む論文公開に関する仕様を検討した。

---

## 9. 実施事業6：標準化活動（定款第4条1項3号）

---

### 9.1 情報規格調査活動 [所掌：情報規格調査会]

#### (1) 国際標準化中心メンバーとしての貢献

昨年度から引き続き、メディア符号化（SC29）、デジタル記録媒体（SC23）、文字コード（SC2）などの重点領域の委員会議長、幹事国などの国際役職引き受けを継続するとともに、国の代表として、JTC1総会（11月 Abu Dhabi）に出席し、審議プロセス・組織の見直し、新規標準化領域などの議論に参加した。

- ① 今年度の引き受け件数は、議長3件（20SC委員会中）、セクレタリアート4件（20SC委員会中）で昨年と変化なし。その他、コンビーナ（各SC委員会傘下のWG主査）14件（107WG中、昨年比2件減）、プロジェクトエディタ107名（昨年比23名減）と昨年同様に貢献した。
- ② 重要な標準化領域に対しては新たな会員の参加を促しつつ積極的に貢献している。ビッグデータおよびスマートシティに関してJTC1で取り組むべき課題をレポートにまとめるSG（Study Group）に参加した。また、JTC1における新規テーマを発掘する役割を担ったSWG on Planningに参加し、日本からの意見をインプットするとともに、日本の関係組織、賛助員企業等に情報の共有を図った。JTC1/WG9 on Big DataおよびJTC1/WG10 on IoTの設立を受けて、国内にも対応する小委員会を立ち上げ、NWIPの審議などを開始した。
- ③ 日本提案による国際標準化の推進としては、新業務項目（NP）の提案（承認済）10件、国際標準（IS）などの発行されたもの15件などである。
- ④ 国際会議の日本での開催：SC7/WG4、SC25/WG1、SC29総会&WGs、SC34総会&WGs、SC40/WG3、5件の国際会議を開催した。

#### (2) 健全な情報規格調査会の運営の維持

- ① 活動への参加者と費用負担に関して公平性を保持することを目指して、これまで費用負担なしに活動可能としていたエキスパート制度を見直し、賛助員への参画か新設のアドバイザーに移行することを求めた。また、所属を持たずに個人として活動している人を、賛助員が委員に推薦できる制度を開始した。今年度いっぱい、これまでの参画方法を許容することとしたものの、一部の専門委員会では、今後の活動方法について調整が必要な状況である。引き続き安定的な運営に努める。
- ② 国際標準化活動への参加・貢献の割合をできる限り維持することに努めた。404回の標準化国際会議への参加者は、延べ1,296人とほぼ昨年並みを維持した。

- ③ 今年度も引き続き、本部と情報規格調査会との連絡会を設置し、年3回会議を実施した。情報セキュリティの保持、運営方法の改善、セミナーの実施、予算策定など、情報共有を図りつつ運営を推進した。

### (3) 広報活動とセミナーの実施

- ① 刊行物「情報技術標準 NEWSLETTER」：季刊誌（年4回）および別冊（年1回）を発行した。
- ② 情報技術標準化フォーラム（2014年5月19日）：情報処理学会喜連川優会長による「見え始めるビッグデータの価値と標準化への期待」と、伊藤理事による「JTC 1におけるビッグデータ等の新規標準化テーマに関する活動状況」の2件の講演を実施した。
- ③ SC29 画像・音声符号化伝送技術、および SC27 情報セキュリティ技術、に関して有料セミナーを実施した。

### (4) 表彰

標準化関連活動への貢献を顕彰するため、標準化貢献賞等を贈呈した。詳細は付録5（p.51）に掲載する。

---

## 10. 実施事業7：国際活動（定款第4条1項5号および2号）

---

### 10.1 関連する海外学協会との連携・協力

#### (1) International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加 [所掌：IFIP委員会]

- ① IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の総会 General Assembly (GA) ・理事会 Council への参加  
IFIP 総会(9月11日～13日、ウィーン(オーストリア))に村山 IFIP 日本代表(兼 IFIP Vice President, 2014年9月より就任)が参加した。
- ② 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加
- ③ IFIP 活動の周知  
会誌(3月号)への活動報告、会議レポートの掲載のほか、メールニュース、Web を利用した情報発信を行った。
- ④ International Professional Practice Partnership (IFIP IP3) への参画

#### (2) IEEE-Computer Society との連携・協力

- ① 2014年7月21日～25日にスウェーデンにて開催された The 38th Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2014) への技術協力を行った。
- ② 第77回全国大会において IEEE-CS 会長 Thomas M. Conte 氏を招聘し招待講演を行った。  
演題「The IEEE Rebooting Computing Initiative」
- ③ 新しいサービス提供などを含めた姉妹学会覚書を継続するとともに、意見交換を行った。

#### (3) 海外学協会との連携・協力

- ① China Computer Federation (CCF) との連携・協力
- ・第77回全国大会において、CCF CEO Zide Du 氏を招聘し招待講演を行った。  
演題「Why the CCF is Unique?」
  - ・中長期的な交流に向けて意見交換を行い、2015年5月1日から2018年4月30日までの協力協定(MOU)を結んだ。
- ② 他の海外学会との協力関係の継続  
以下の海外学会との協力関係を継続するとともに、アジアの関連学会とは中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

- ・ The Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
- ・ The Korean Institute of Information Scientists and Engineers (KIISE)
- ・ Association for Computing Machinery (ACM)
- ・ Computer Society of India (CSI)

③ The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

#### (4) 国際会議の開催 (3件)

※開催状況の詳細は付録4 (p.45) に掲載する。

---

## 11.1. その他：関連学協会等との連携および協力 (定款4条1項6号)

---

### 11.1 関連学協会・日本学術会議

#### (1) 日本工学会および電気・情報関連学会連絡協議会への参加

「日本工学会公開シンポジウム (5月)」における震災復興支援関係の講演、会長懇談会への参加など、日本工学会に参加し、関連学協会の共通の問題について意見交換を行った。また、日本工学会主催の世界工学会議 (WECC2015 ; 2015年開催) の開催協力、工学系6学会会長連携会議への参画、工学系6学会会長連携会議の主催による「四国巨大災害危機管理フォーラム」での講演を行った。

#### (2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会との共催による「情報科学技術フォーラム (FIT)」ほか、研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行った。

#### (3) 日本学術会議など関連団体等への協力

日本学術会議に協力学術研究団体として協力するとともに、若手研究者の会を通じて、日本学術会議の若手アカデミー委員会に参加した。

#### (4) 電子情報通信学会との連立開催 (連催) に関する覚書

電子情報通信学会との本学会の研究会が合同で開催する研究会の形態について、著作権の扱いや当日用サイトでの論文公開などを定めた覚書を検討した。

### 11.2 会議の協賛後援等

#### (1) 国内会議の協賛・後援等

「最先端 IT・エレクトロニクス総合展「CEATEC JAPAN 2014」」 (電子情報技術産業協会主催, 2014年10月7日~11日) ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 116件 (2015年3月現在) を行った。

#### (2) 国際会議の協賛・後援等

「ACM 国際大学対抗プログラミングコンテスト アジア地区予選東京大会」 (情報科学国際交流財団主催, 2014年10月18日~20日) ほか、関連学協会等の会議の協賛・後援等 15件 (2015年3月現在) を行った。

---

## 12. 法人運営

---

### 12.1 入会促進

#### (1) 新規会員の獲得と会員減の防止

会員減対策として以下の施策を実施した。正会員の減少は依然継続しているものの、個人会員合計は昨年度 299 名の増加に引き続き、今年度も 310 名の増加となった。

- ① 各活動において学会の価値向上策に取り組むとともに、理事を中心に、新規会員の勧誘および退会防止に努めた。
- ② 連続セミナー・ソフトウェアジャパンの開催、デジタルプラクティスの Newsstand への掲載など実務家に向けた活動を推進した。また、関連イベントの非会員参加者が入会する際には入会金を免除するよう対応した。
- ③ 会費滞納による資格喪失の防止策として、会費の口座引落、クレジットカード決済等を推進した。

#### (2) 学生会員の獲得と育成

- ① 学部学生、高校生、高専生向けの学生無料トライアル会員制度を強力に推進し、対象校の拡充を図り 717 名に本制度を利用頂いた。
- ② 研究会ならびに支部の協力により新規学生会員の獲得活動を実施し、学生会員の正会員への移行・定着の施策として 1 研究会への無料登録を継続した。
- ③ 研究会と支部の協力を得て、学生のコミュニティを作り、自発的な参加を促す。また、学生・若手向けセミナーの企画開催など、学生会員の新規獲得と正会員への定着率の向上に努めた。

### 12.2 政策提言活動の推進

情報処理に対する一般社会の価値認識を高めるとともに、学会の存在感の向上を図り、国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指して政策提言体制の強化を図った。情報系の各種パブコメに対しても(4)のとおり 15 件の意見を提出した。

#### (1) 長期的な研究のロードマップ作成による学会の方向性の形成

昨年度、研究会の協力を得て日本学術会議に提出した長期的な研究のロードマップについて、「理学・工学分野における科学・夢ロードマップ 2014」の状況報告として 2014 年 6 月に日本学術会議第 5 回理学・工学系学協会連絡協議会（全体会議）があり出席をした。

#### (2) 国の政策および方針に関する積極的提言

国の政策および方針に積極的に関与するべく 2014 年 9 月に文部科学省大臣官房政策課評価室長を、また 10 月には内閣官房情報通信技術 (IT) 総合戦略室内閣参事官の方をお招きする等、関連省庁との意見交換を継続した。

#### (3) 若手研究者の会の運営

若手研究者の連携強化・活動の活性化、および日本学術会議の同様の活動の受皿となること等を目的として、若手研究者の会の活動を継続し、若手からの意見収集と運営への反映に努めた。

#### (4) 情報系の各種パブコメへの積極的対応

2014 年度中に次の意見を公開した。

- ・「革新的研究開発推進プログラム (ImPACT)」に対する意見 (2014年4月)
- ・「ビッグデータの活用による農業の高度化」に関する実証に対する意見 (2014年4月)
- ・「ビッグデータの活用による路面管理の高度化」に関する実証に対する意見 (2014年4月)
- ・「スマートプラチナ社会の構築」に関する実証に対する意見 (2014年4月)



- ・「放送・通信分野等における公的個人認証サービスの利活用」に関する実証に対する意見（2014年4月）
- ・「中央教育審議会高大接続特別部会審議経過報告及び初等中等教育分科会高等学校教育部会審議まとめ案」に対する意見（2014年5月）
- ・ポスト「京」（エクサスケールスーパーコンピュータ）で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題について」に対する意見（2014年5月）
- ・「サイバーセキュリティ2014（案）」に対する意見（2014年6月）
- ・「世界最先端IT国家創造宣言改定（案）」に対する意見（2014年6月）
- ・「パーソナルデータの利活用に関する制度改正大綱」に対する意見募集について（2014年7月）
- ・「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップーロードマップ2014ー」に関する意見募集の実施について（2014年7月）
- ・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」案のパブリックコメント（意見公募手続）の実施について（2014年8月）
- ・「2020年代に向けた情報通信政策の在り方ー世界最高レベルの情報通信基盤の更なる普及・発展に向けてー」答申（案）に対する意見（2014年11月）
- ・「特定個人情報保護評価書（全項目評価書）（案）」に関する意見募集（2015年3月）
- ・「平成27年度における電波資源拡大のための研究開発の基本計画書（案）」に関する意見募集（2015年3月）

### 12.3 震災復興関連の取り組み

「日本工学会公開シンポジウム（5月）」における震災復興支援関係の講演、また工学系6学会会長連携会議の主催による「四国巨大災害危機管理フォーラム（9月）」での講演を行った。

### 12.4 運営体制の充実・改善等

#### (1) 理事の増員ならびに選挙制度の改善による運営体制の充実

定款を改訂し、新たに「長期戦略担当理事」と「新世代担当理事」を設けた。また、選挙制度の見直し・改善を行い、女性理事枠を新たに設け運営体制の充実を図った。

さらに、学会活動を活性化すべく、発言しないと帰れない理事会や楽しめる総会（場所：東京理科大学、情報処理技術遺産「微分解析機」の動態展示）を推進した。

#### (2) 新世代発想の学会運営への取り込み

新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」を設け、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込み、株式会社ドワンゴ（niconico）と公式提携した。また、第77回全国大会においてそこで発表できることを一つのステータスと位置付けるセッション「IPJSJ-ONE」を企画、開催した。

また、昨年度若手研究者の会から提案をした全国大会での託児所設置や視覚障害者向けの情報保障について、第77回全国大会で対応した。

#### (3) 寄付の募集

個人及び企業の皆様に幅広く寄付の御願いをした。

#### (4) 長期的ビジョンの継続体制の確立

長期戦略理事を中心に、学会の魅力・価値の向上を目指して中長期計画を策定することにより各事業のスケジュールの明確化を図り、諸施策の着実な実施を推進した。

## (5) 中長期計画を踏まえた運営改善

「魅力ある学会」に向け、学会活動に関する中長期計画を踏まえつつ、第三者機関であるアドバイザーボードミーティングを2014年7月に開催し、ボードメンバーからの助言を実施事業の企画および運営の改善に役立てた。

## (6) シニア会員制度の導入

今年度より、学会活動に対する本学会からのより具体的な敬意を表明するとともに、将来にわたって引き続き学会活動の中心となって活躍頂くとする趣旨のもと「情報処理学会シニア会員」制度を実施し、261名の方に「情報処理学会シニア会員」の称号を贈呈した。

## (7) 広報活動の推進・諸活動のデータ収集

- ① 学会 Web の充実の他、Facebook, Twitter, Ustream, ならびに App Store の Newsstand への会誌、デジタルプラクティスの掲載、さらには株式会社ドワンゴとの公式提携によるニコニコ動画内への「情報処理学会公式ニコニコチャンネル設置」などソーシャルメディアを活用した積極的な広報活動を推進した。
- ② 各種行事等の場での入会促進および学会紹介、IPJS メールニュースの内容充実を図った。
- ③ 会員の入退会、大会・セミナー等への投稿・申込み状況、会誌等のモニター会員による評価など、関連データの収集・分析を継続し諸活動の評価・改善に努めた。

## (8) 会員サービスの充実に向けた学会情報システムの見直し

会員サービス向上のために会員制度を見直し、その実現に向け学会情報システムの仕様を検討した。また、会員のニーズを把握するためにCRMを構築し、学会情報システムおよび周辺システムからデータを集約し、新しいサービス提供のためのCRM基盤「INPACT (Investigate Personal Activity) システム」を整備し、第77回全国大会の懇親会に於いて成果の一部を発表した。

## (9) 2013年度監事付帯意見への対応

2013年度監事付帯意見（2014年6月開催の第591回理事会に監事が提出）について、改善策の検討ならびに学会運営および中長期計画への反映などの対応を実施し、結果を599回理事会（2015年4月）で報告した。監事付帯意見は、会員減に対する取り組み、学会システムのリニューアルに向けて、英文論文の魅力化に向けての3項目から成り、全てに対し検討・対応を実施した。

## (10) 著作権関連 [所掌：著作権委員会]

日本バーチャルリアリティ学会との覚書、および研究会のライブ動画中継におけるガイドラインについて審議した。また、著作権侵害の扱いについて審議した。

## (11) セキュリティインシデント [所掌：事故調査委員会]

2009年に当会が企画した次世代ハンドブックの執筆者に関する個人情報の漏洩が2014年10月に発覚し、緊急に事故調査委員会を立上げ対応した。また、今後に向けてこれを好機と捉え、研究者、学会、研究機関が協力して活動を推進するための指針の作成をすすめている。

## 12.5 その他表彰等

### (1) 顕彰、名誉会員・フェローの選定など

功績賞、学会活動貢献賞の贈呈のほか、フェロー認定、情報処理技術遺産認定を行った。詳細は付録5 (p. 46) に掲載する。

### (2) 事務局職員

事務局常勤職員の年度末在籍者は29名（本部21名、規格8名、前年末は29名）である。

以上

## 付1. 会議等に関する事項（総会、理事会、各種委員会）

### ■ 総 会

[2014年度定時総会の構成（定款・法人法上の社員）]

総代表会員数：127名

※総会成立定数：64名

\*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項	会議結果
2014年度定時総会 2014年6月4日  議長：喜連川優（会長） 出席：109名（内、委任状64名）	<p>&lt;決議事項&gt;</p> <p>第1号議案：2013年度に係る報告の件 第2号議案：新名誉会員の件 第3号議案：定款の変更および一般規則の改訂の件 第4号議案：一部役員任期満了による新役員選任の件</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>第1号報告：2014年度事業計画および予算の件 第2号報告：会費滞納会員の取り扱いの件</p> <p>&lt;表彰（議事終了後）&gt;</p> <p>功績賞、フェロー、論文賞、喜安記念業績賞、長尾真記念特別賞、教育賞、学会活動貢献賞</p>	承認 承認 承認 承認  報告 報告  ---

### ■ 理事会

[第591回までの構成（理事23名）]

会 長：喜連川優

副 会 長：西尾章治郎、中田登志之

先任理事：赤津雅晴、池内克史、位野木万里、大沢英一、岡部寿男、折原良平、木下哲男、砂原秀樹、鳥居 悟、松井 充

後任理事：伊藤 智、乾健太郎、浦本直彦、加藤由花、菊池浩明、妹尾義樹、高橋克己、新田 淳、松原 仁、安本慶一

監 事：長谷川亨、黒橋禎夫

[第592回以降の構成（理事25名）]

会 長：喜連川優

副 会 長：中田登志之、徳田英幸

先任理事：伊藤 智、乾健太郎、浦本直彦、加藤由花、菊池浩明、妹尾義樹、高橋克己、新田 淳、松原 仁、安本慶一

後任理事：相澤彰子、阿野茂浩、岩岸正明、片寄晴弘、河原達也、清木 康、後藤厚宏、後藤真孝、齋藤正史、角 康之、

住田一男、松尾昭彦

監 事：黒橋禎夫、守安隆

※理事会成立定数：12名（第591回まで）、13名（第592回以降）

\*会議の結果はいずれも全会一致

開催年月日	議事事項 ※ [ ] 内：担当理事	会議の結果
決議の省略・報告の省略 2014年4月23日（監事確認日）  議決可能理事数：全議案とも23名	<p>&lt;法令および定款により理事会決議があったものとする事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年4月の新規入会申請 [総務]</li> <li>2. 2014年度終身会員の承認 [総務]</li> <li>3. 支部運営委員会構成について [総務]</li> <li>4. IFIP日本代表の交代について [調査研究]</li> <li>5. シンポジウム等の開催願い [調査研究]</li> <li>6. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業]</li> <li>7. 国際会議の協賛・後援等依頼 [事業]</li> <li>8. プログラミングコンテスト委員会規程の改訂 [事業]</li> <li>9. 情報規格調査会委員の変更 [標準化]</li> </ol> <p>&lt;法令および定款により理事会報告があったものとする事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年3月期開催会議 [総務]</li> <li>2. 2013年度末の会員数の状況 [総務]</li> <li>3. 2014年度支部報告会日程および担当役員について [総務]</li> <li>4. 2013年度功績賞受賞者：推薦文等 [総務]</li> <li>5. 日本工学会フェロー認定のご連絡 [総務]</li> <li>6. 学会システムMonthly統計資料 [総務]</li> <li>7. 第34回・35回学会システムWG議事録 [総務]</li> <li>8. 内閣府への意見提出（パブコメ）2件 [企画]</li> <li>9. 総務省への意見提出（パブコメ）4件 [企画]</li> <li>10. 第46回情報処理学会教科書編集委員会議事録 [会誌]</li> <li>11. 第23回著作権委員会議事録 [会誌]</li> <li>12. 第404回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録抜粋 [論文誌]</li> <li>13. 第49回デジタルプラクティス編集委員会 議事録 [技術応用]</li> <li>14. セミナー推進委員会（第10回）議事録 [技術応用]</li> <li>15. 第25回・26回高度IT人材資格検討WG議事録 [技術応用]</li> <li>16. 第9-11回個人認証試行委員会議事録 [技術応用]</li> </ol>	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認  確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認



	<ul style="list-style-type: none"> <li>5. 第37回学会システムWG議事録 [総務]</li> <li>6. 事務局メール誤送信に関する報告 [総務]</li> <li>7. 「中央教育審議会高大接続特別部会審議経過報告及び初等中等教育分科会高等学校教育部会審議まとめ案」パブコメ提出 [企画]</li> <li>8. ポスト「京」(エクサスケールスーパーコンピュータ)で重点的に取り組むべき社会的・科学的課題について」パブコメ提出 [企画]</li> <li>9. 第90回歴史特別委員会議事録 [会誌]</li> <li>10. 第405回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会(幹事会)議事録(抜粋) [論文誌]</li> <li>11. 第17回トランザクション編集会議議事録 [論文誌]</li> <li>12. 第6回技術応用運営委員会議事録 [技術応用]</li> <li>13. 第50回デジタルプラクティス編集委員会議事録 [技術応用]</li> <li>14. 第27回・28回高度IT人材資格検討WG議事録 [技術応用]</li> <li>15. 第12回個人認証試行委員会議事録 [技術応用]</li> <li>16. 第19回企業認定制度WG議事録 [技術応用]</li> <li>17. 第1回第77回全国大会プログラム委員会議事録 [事業]</li> <li>18. 第20回プログラミングコンテスト委員会議事録 [事業]</li> <li>19. 2013年度技術者教育プログラム認定審査収支報告書 [教育]</li> <li>20. 第309回規格役員会議事録 [標準化]</li> </ul>	<p>確認 確認 確認</p> <p>確認</p> <p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p>
<p>第591回理事会 2014年6月4日</p> <p>議長：喜連川優（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも23名 出席理事数：20名</p>	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. IWSEC2014国際会議開催申請 [調査研究]</li> <li>2. ICMU2015国際会議開催申請 [調査研究]</li> <li>3. IEEEとの協力協定(MOU)更新について [調査研究]</li> <li>4. 「情報処理学会DPレポート」創刊にあたって [技術応用]</li> <li>5. 教員免許更新講習ワーキンググループ関連作業従事者への旅費支給について [教育]</li> <li>6. 情報規格調査会規程、及び規程実施細則の変更 [標準化]</li> </ul> <p>&lt;審議事項&gt; (該当無し)</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 法令・定款による理事の職務執行状況報告(3月～5月) [総務]</li> <li>2. 期末会計監査結果報告書：詳細(監査法人) [総務]</li> <li>3. 2013年度監事監査付帯意見 [総務]</li> <li>4. 日本学術振興会育志賞の推薦 [総務]</li> <li>5. 第185回会誌編集委員会議事録/モニタ評価・特集ほか [会誌]</li> <li>6. 会誌広告状況(2014年5月現在) [会誌]</li> <li>7. ジャーナル・JIP特集/トランザクション発行状況[論文誌]</li> <li>8. デジタルプラクティス：特集リスト・ダウンロード数 [技術応用]</li> </ul>	<p>承認 承認 承認 承認 承認</p> <p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>
<p>第592回理事会 2014年6月4日</p> <p>議長：喜連川優（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも25名 出席理事数：21名</p>	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 代表理事(副会長)および業務執行理事の選定</li> </ul> <p>&lt;審議事項&gt; (該当無し)</p> <p>&lt;報告事項&gt; (該当無し)</p>	<p>承認</p>
<p>第593回理事会 2014年6月19日</p> <p>議長：喜連川優（会長）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも25名 出席理事数：22名</p>	<p>&lt;承認事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. シニア会員制度規程の改訂について [総務]</li> <li>2. 公益目的支出計画の完了年月日の変更申請について [総務]</li> <li>3. 公益社団法人日本技術士会との「高度な情報技術者の育成・可視化および情報系プロフェッショナルコミュニティの形成に関する覚書」 [技術応用]</li> <li>4. 第20回スーパーコンピューティングコンテスト(スーパーコン14)の情報処理学会共催のお願い [教育]</li> </ul> <p>&lt;審議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 企画政策委員会関係 [副会長・企画] <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学会価値の向上</li> <li>(2) 会員増/中長期計画/監事付帯意見への対応(依頼)</li> <li>(3) 学生無料トライアル制度2014年度状況/拠点校へのアンケート/制度適用者推移</li> <li>(4) 諸活動の目標数値 付. 月次進捗管理</li> <li>(5) 2014年度第1回企画政策委員会議事録</li> </ul> </li> <li>2. ニコニコ動画(ドワンゴ社)との公式提携の御提案 [新世代]</li> <li>3. 研究会のライブ動画中継について [会誌]</li> </ul> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2014年度会員状況(2014年6月現在) [総務]</li> <li>2. 第125回総務財務運営委員会議事録 [総務]</li> <li>3. アドバイザリーボード説明資料 [企画]</li> <li>4. モニタ評価・特集ほか [会誌]</li> <li>5. 会誌広告状況(2014年6月現在) [会誌]</li> <li>6. 就職情報案内の別冊掲載について [会誌]</li> <li>7. ジャーナル・JIP特集/トランザクション発行状況[論文誌]</li> </ul>	<p>承認 承認 承認</p> <p>承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認</p>





	12. デジタルプラクティス：特集リスト・ダウンロード数 [技術応用] 13. 教員免許更新講習の報告 [教育]	確認 確認
決議の省略・報告の省略 2014年9月29日（監事確認日）  議決可能理事数：全議案とも25名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2014年9月の新規入会申請 [総務] 2. 2015年度代表会員理事会推薦候補者(1次案)について [総務] 3. シンポジウム等の開催願い [調査研究] 4. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] 5. 2014年度「ソフトウェアジャパンアワード」について [技術応用] 6. 情報規格調査会委員の変更 [標準化] 7. 「平成26年度省エネルギー等国際標準開発実施計画書」に関する委託契約締結の承認願い [標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2014年8月期開催会議 [総務] 2. 第41・42回学会システムWG議事録 [総務] 3. 学会システムMonthly統計資料（2014年8月分） [総務] 4. 2014年度功績賞・顕功賞・喜安記念業績賞・長尾真記念特別賞選定手続きについて [総務] 5. 2014年8月月次損益管理表 [財務] 6. 第92回歴史特別委員会議事録 [会誌] 7. 第408回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録（抜粋） [論文誌] 8. 第2～4回個人認証審査委員会議事録/企業認定審査委員会（第1回）議事録 [技術応用] 9. 第30回高度IT人材資格検討WG議事録/第1回資格制度運営委員会議事録 [技術応用] 10. 第13回セミナー推進委員会議事録 [技術応用] 11. 第3回ソフトウェアジャパン実行委員会議事録 [技術応用] 12. 第8回ソフトウェアジャパンプログラム委員会議事録 [技術応用] 13. 第62回電気科学技術奨励賞の結果報告 [技術応用] 14. 第23回プログラミングコンテスト委員会議事録 [事業] 15. 2014年度第3回情報処理教育委員会議事録 [教育] 16. 第312回規格役員会議事録 [標準化]	承認 承認 承認 承認 承認 承認  確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
決議の省略・報告の省略 2014年10月24日（監事確認日）  議決可能理事数：全議案とも25名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2014年10月の新規入会申請 [総務] 2. シンポジウム等の開催願い/終了報告 [調査研究] 3. 「京都大学第9回ICTイノベーション」に係る共催の依頼 [事業] 4. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] 5. 情報規格調査会委員の変更 [標準化] <法令および定款により理事会報告があったものとする事項> 1. 2014年9月期開催会議 [総務] 2. 2014年9月月次損益管理表 [財務] 3. 第128回総務財務運営委員会議事録 [総務] 4. 2014年度第4回企画政策委員会議事録 [企画] 5. 期中会計監査結果報告（2014年9月） [総務] 6. 2015年度役員候補者推薦状況報告 [総務] 7. 2014年度支部長会議議事録 [総務] 8. 第4回新世代企画委員会議事録 [新世代] 9. 学会システムMonthly統計資料（2014年9月分） [総務] 10. 2014年10月広告収入状況 [会誌] 11. 第48回情報処理学会教科書編集委員会議事録 [会誌] 12. 第93回歴史特別委員会議事録 [会誌] 13. 第409回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録（抜粋） [論文誌] 14. 第18回トランザクション編集会議議事録 [論文誌] 15. 第69回調査研究運営委員会議事録 [調査研究] 16. 各領域委員会報告（議事録抜粋） [調査研究] 17. 2015年度研究会登録費の算定について [調査研究] 18. 研究会の継続・新設・名称変更について [調査研究] 19. 第2回・第3回資格制度運営委員会議事録 [技術応用] 20. 第14回セミナー推進委員会議事録 [技術応用] 21. 「ソフトウェアジャパン2015」の開催について [技術応用] 22. 2014年度第4回情報処理教育委員会議事録 [教育] 23. 第313回規格役員会議事録 [標準化]	承認 承認 承認 承認 承認  確認
決議の省略・報告の省略 2014年11月21日（監事確認日）  議決可能理事数：全議案とも25名	<法令および定款により理事会決議があったものとする事項> 1. 2014年11月の新規入会申請 [総務] 2. シンポジウム等の開催願い/終了報告 [調査研究] 3. 2014年度情報処理技術遺産認定候補リスト [会誌] 4. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業]	承認 承認 承認 承認





	<p>8. 情報規格調査会委員の変更 [標準化] &lt;法令および定款により理事会報告があったものとする事項&gt; 1. 2014年11月期開催会議 [総務] 2. 2014年11月月次損益管理表 [財務] 3. 「2020年代に向けた情報通信政策の在り方-世界最高レベルの情報通信基盤の更なる普及・発展に向けて-」パブコメ提出 [企画] 4. 第131回総務財務運営委員会議事録 [総務] 5. 2014年度第7回企画政策委員会議事録 [企画] 6. 第5回新世代企画委員会議事録 [新世代] 7. 第43回学会システムWG議事録 [総務] 8. 学会システムMonthly統計資料 (2014年11月分) [総務] 9. 2014年12月広告収入状況 [会誌] 10. 第411回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会 (幹事会) 議事録 (抜粋) [論文誌] 11. 2014年度第1回論文賞選定委員会 (ジャーナル) 議事録 [論文誌] 12. 第4回資格制度運営委員会議事録 [技術応用] 13. 第6回個人認証審査委員会議事録 [技術応用] 14. 第3回企業認定審査委員会議事録 [技術応用] 15. 2014年デジタルプラクティスアワードについて [技術応用] 16. デジタルプラクティス : 特集リスト・ダウンロード数 [技術応用] 17. 第56回デジタルプラクティス編集委員会議事録 [技術応用] 18. 第25回プログラミングコンテスト委員会議事録 [事業] 19. 第314回規格役員会議事録 [標準化]</p>	承認  確認 確認 確認  確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認
<p>第597回理事会 2015年1月20日</p> <p>議長 : 喜連川優 (会長)</p> <p>議決可能理事数 : 全議案とも25名 出席理事数 : 20名</p>	<p>&lt;承認事項&gt; 1. 2015年度役員選挙理事会推薦最終候補者 [総務] 2. 2015年度代表会員最終候補者 [総務] 3. 名誉会員の推薦 [総務] 4. SPLC2013国際会議終了報告 [調査研究] 5. 英文トランザクションCVAの出版委託先変更について [調査研究] 6. 第78回全国大会プログラム委員長の変更について [事業] 7. 認定情報技術者個人・企業認定審査における謝金及び旅費の支給規程 [技術応用] 8. 情報規格調査会規程実施細則の改訂案 [標準化] 9. 情報規格調査会関係のプレスリリース案 [標準化]</p> <p>&lt;審議事項&gt; 1. 企画政策委員会関係 [副会長]   (1) 「ジュニア会員制度」本格運用に向けた検討   (2) 「ジュニア会員制度」本格運用に伴う定款変更・一般規則改訂 (案) 2. 事業計画・予算ほか [各理事]   (1) 2015年度事業計画 (1次)・2014年度報告 (1月現在)   (2) 2015年度予算 (1次)・2014年度決算見込 (1月現在)   (3) 付. 中長期計画</p> <p>&lt;報告事項&gt; 1. 法令・定款による理事の職務執行状況報告 (9月-11月) [総務] 2. 次年度の定時総会について [総務] 3. 出版物執筆に関する個人情報漏洩について (事故調査委員会最終報告) [総務] 4. 会員からの意見報告 [総務] 5. 第192回会誌編集委員会議事録、会誌モニター評価・特集一覧等 [会誌] 6. 会誌広告状況 (2015年1月現在) [会誌] 7. ジャーナル・JIP特集/トランザクション発行状況 [論文誌] 8. フェロー表彰をFITの会場で行うことについて [事業] 9. デジタルプラクティス : 特集リスト・ダウンロード数 [技術応用]</p>	承認 承認 一部承認 承認 承認 承認 承認 承認  承認 承認  承認 承認  承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
<p>決議の省略・報告の省略 2015年1月29日 (監事確認日)</p> <p>議決可能理事数 : 全議案とも25名</p>	<p>&lt;法令および定款により理事会決議があったものとする事項&gt; 1. 2015年1月の新規入会申請 [総務] 2. 2015年度支部予算配分額 [総務] 3. 学会活動貢献賞の選定について [総務] 4. シンポジウム等の開催願い/終了報告 [調査研究] 5. 国内会議の協賛・後援等依頼 [事業] 6. 国際会議の協賛・後援等依頼 [事業]</p> <p>&lt;法令および定款により理事会報告があったものとする事項&gt; 1. 2014年12月期開催会議 [総務] 2. 2014年12月月次損益管理表 [財務] 3. 第132回総務財務運営委員会議事録 [総務] 4. 2014年度第8回企画政策委員会議事録 [総務] 5. 第13・14回政策提言委員会、第4回若手研究者の会合同委員会議事録 [企画] 6. 第6回新世代企画委員会議事録 [総務]</p>	承認 承認 承認 承認 承認 承認  承認 承認 承認 承認 承認 承認

	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. 第44回学会システムWG議事録〔総務〕</li> <li>8. 学会システムMonthly統計資料（2014年12月分）〔総務〕</li> <li>9. 外部の賞に関する候補者推薦について〔総務〕</li> <li>10. 第94回歴史特別委員会議事録〔会誌〕</li> <li>11. 第412回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録（抜粋）〔論文誌〕</li> <li>12. 第8回技術応用運営委員会、第10回ソフトウェアジャパンプログラム委員会 第5回ソフトウェアジャパン実行委員会 合同委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>13. 第15回セミナー推進委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>14. 第57回デジタルプラクティス編集委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>15. 第5回資格制度運営委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>16. 第7回個人認証審査委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>17. 第4回企業認定審査委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>18. FIT2015実行委員会・プログラム委員会合同委員会議事録〔事業〕</li> <li>19. 第26回プログラミングコンテスト委員会議事録〔事業〕</li> <li>20. 2014年度第5回情報処理教育委員会議事録〔教育〕</li> <li>21. 第49回情報処理学会教科書編集委員会議事録〔教育〕</li> <li>22. 第315・316回規格役員会議事録〔標準化〕</li> </ul>	<p>確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認 確認</p>
<p>決議の省略・報告の省略 2015年2月26日（監事確認日）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも25名</p>	<p>&lt;法令および定款により理事会決議があったものとする事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2015年2月の新規入会申請〔総務〕</li> <li>2. 2014年度情報処理学会フェロー候補者の選定について〔総務〕</li> <li>3. 日本工学会フェロー候補者の推薦について〔総務〕</li> <li>4. シンポジウム等の開催願い/終了報告〔調査研究〕</li> <li>5. 連続セミナー2015企画（案）〔技術応用〕</li> <li>6. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕</li> <li>7. 国際会議の協賛・後援等依頼〔事業〕</li> <li>8. 情報規格調査会委員変更〔標準化〕</li> </ul> <p>&lt;法令および定款により理事会報告があったものとする事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2015年1月期開催会議〔総務〕</li> <li>2. 2015年1月月次損益管理表〔財務〕</li> <li>3. 第133回総務財務運営委員会議事録〔総務〕</li> <li>4. 2014年度第9回企画政策委員会議事録〔総務〕</li> <li>5. 第45回学会システムWG議事録〔総務〕</li> <li>6. 学会システムMonthly統計資料（2015年1月分）〔総務〕</li> <li>7. 外部の賞等に関する審査結果報告（日本学術振興会育志賞）〔総務〕</li> <li>8. 会誌広告状況（2015年2月）〔会誌〕</li> <li>9. 第413回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録（抜粋）〔論文誌〕</li> <li>10. 2014年度第2回論文賞選定委員会（ジャーナル）議事録〔論文誌〕</li> <li>11. 第16回セミナー推進委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>12. 第58回デジタルプラクティス編集委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>13. 第6回資格制度運営委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>14. 第5回企業認定審査委員会議事録〔技術応用〕</li> <li>15. 第56回プログラミング・シンポジウム開催報告〔事業〕</li> <li>16. 第317回規格役員会議事録〔標準化〕</li> </ul>	<p>承認 承認</p>
<p>決議の省略・報告の省略 2015年3月21日（監事確認日）</p> <p>議決可能理事数：全議案とも25名</p>	<p>&lt;法令および定款により理事会決議があったものとする事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2015年3月の新規入会申請〔総務〕</li> <li>2. 2014年度長尾真記念特別賞について〔総務〕</li> <li>3. 2014年度喜安記念業績賞について〔総務〕</li> <li>4. 2014年度感謝状の贈呈について〔総務〕</li> <li>5. 2015年度会誌編集委員会名簿〔会誌〕</li> <li>6. シンポジウム等の終了報告〔調査研究〕</li> <li>7. 研究会主査・幹事の交代について〔調査研究〕</li> <li>8. 2014年度論文賞について〔論文誌〕</li> <li>9. 国内会議の協賛・後援等依頼〔事業〕</li> </ul> <p>&lt;法令および定款により理事会報告があったものとする事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 2015年2月期開催会議〔総務〕</li> <li>2. 第46回学会システムWG議事録〔総務〕</li> <li>3. 学会システムMonthly統計資料（2015年2月分）〔総務〕</li> <li>4. 第7回新世代企画委員会議事録〔総務〕</li> <li>5. 「2020年代に向けた情報通信政策の在り方 答申（案）」パブコメ提出〔企画〕</li> <li>6. 各領域委員会報告（議事録抜粋）〔調査研究〕</li> <li>7. 第70回調査研究運営委員会議事録〔調査研究〕</li> <li>8. 第414回論文誌ジャーナル/JIP編集委員会（幹事会）議事録（抜粋）〔論文誌〕</li> <li>9. 連続セミナー2014アンケート総合集計結果〔技術応用〕</li> <li>10. 短期集中セミナー「情報セキュリティ/プライバシーと国際標準」開催報告〔技術応用〕</li> </ul>	<p>承認 承認</p>



■各種委員会

※委員は6月以降の構成を掲載（以下、同）

◎委員長・主査、○副委員長・財務委員、幹事・副査、△担当理事（担務）、\*オブザーバ、アドバイザー委員

1. 法人運営

1.1 企画政策委員会

◎/△中田登志之、○/△徳田英幸、新田 淳、阿野茂浩、後藤厚宏、後藤真孝、齋藤正史、妹尾義樹、松尾昭彦、高橋克巳、岩岸正明

[6月12日、7月23日、8月26日、9月30日、10月28日、11月20日、12月5日、'15年1月15日、2月17日、3月13日]

アドバイザーボード対応/選挙制度および運営体制の見直し/会員サービスに関する検討/学生無料トライアル対応ほか

1.1.1 学会システムWG

◎鳥居 悟、赤池洋俊、大森久美子、中田登志之、中津佳彦、平林浩一、平山敏弘、森 良哉

[4月9日、4月16日、5月12日、5月29日、7月1日、8月7日、9月2日、9月16日、11月13日、12月18日、'15年1月27日、2月20日、3月4日]

学会管理システムに関する検討対応

1.2 政策提言委員会

◎/△徳田英幸、○/△新田 淳、○/△阿野茂浩、菊池浩明、清木 康、片寄晴弘、後藤厚宏、黒橋禎夫、妹尾義樹、関口智嗣、高橋克巳、中野美由紀、東野輝夫

[7月23日、10月2日、1月15日]

パブコメ対応/内閣官房 IT総合戦略室 意見交換会 ほか

1.2.1 若手研究者の会（幹事会）

◎黒橋禎夫、野田夏子、近藤正章、越前 功、大内一成、関嶋政和、高岡詠子、後藤 真、\*菊池浩明、\*清木 康、\*片寄晴弘

[10月2日] 内閣官房 IT総合戦略室 意見交換会 ほか

1.3 総務財務運営委員会

◎/△中田登志之、△妹尾義樹、△高橋克巳、△松尾昭彦、△岩岸正明、△後藤厚宏

[4月23日、5月20日、6月12日、7月23日、8月25日、9月30日、10月28日、11月20日、12月5日、'15年1月15日、2月17日、3月13日]

総会関連事項/損益状況/その他運営上の諸課題の検討対応

1.3.1 本部・規格連絡会

◎/△中田登志之、○/△伊藤 智、△高橋克巳、松尾昭彦、岩岸正明、河合和哉、櫻井義人、成井良久、福田昭一、本庄利守、松本隆明

[4月16日、6月25日] 本部・規格調査会間の連絡

1.4 電子化委員会（学会システムWGの設置により休眠）

1.4.1 セキュリティ委員会

◎村山優子、大谷和子、岡本栄司、菊池浩明、佐々木良一、△妹尾義樹、寺田真敏、鳥居 悟、△松尾 昭彦、丸山 宏

[電子メールベース] 情報セキュリティに関する諸対応

1.5 新世代対応企画委員会

◎後藤真孝、○後藤厚宏、稲見昌彦、△浦本直彦、落合陽一、△加藤由花、△菊池浩明、坂本大介、△妹尾義樹、△高橋克巳、寺田 努、鳥居 悟、西田健志、宮下芳明、△安本慶一、\*中田登志之

[5月27日、6月12日、7月23日、9月30日、11月20日、'15年1月15日、2月17日、3月13日]

新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込むための施策を検討、実施

1.6 支部長会議

◎/△喜連川優、△中田登志之、△徳田英幸、△妹尾義樹、△高橋克巳、△松尾昭彦、△岩岸正明、各支部長：山本雅人（北海道）、大堀 淳（東北）、木村文隆（東海）、金子峰雄（北陸）、藤原 融（関西）、菅原一孔（中国）、獅々堀正幹（四国）、吉田隆一（九州）

[9月18日、12月12日（役員検討会）] 本部-支部の意見交換

1.7 アドバイザーボード

◎有信睦弘、舟橋千鶴子、藤本真樹、森 正弥、小山 透、金寺 登、富田眞治

[7月2日] 第三者的な見地からの情報処理学会の運営に関する助言

## 2. 調査研究活動

### 2.1 調査研究運営委員会

◎/△菊池浩明、○/△清木 康、○/△片寄晴弘、串田高幸、小林 稔、佐藤真一、徳永健伸、並木美太郎

開催年月日	主な議事事項	会議結果
2014年6月24日	1. 委員構成確認 2. 調査研究活動への学会補助額について 3. 共通費の賦課について 4. シンポジウム事務諸費について 5. 全国大会該当分野キーワードの見直しについて	確認 承認 承認 承認 承認⇒ 各領域・研究会に確認
2014年10月14日	1. 2015年度研究会登録費算定方法 2. 研究会の継続・新設・名称変更 3. 研究会の開催に関する覚書について 4. 理事候補者の推薦	承認⇒ 理事会報告 確認⇒ 理事会報告 継続審議 確認⇒ 推薦
2015年3月9日	1. 2014年度活動状況/2015年度計画 2. 中長期計画/事業報告/事業計画	確認 確認

### 2.2 コンピュータサイエンス領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△清木 康、○並木美太郎、上原隆平、鶴林尚靖、枝廣正人、河野健二、五島正裕、福井正博、南出靖彦、棟朝雅晴、森嶋厚行、横川三津夫

2014年7月18日	領域共通-1. 2014年度山下記念研究賞 領域共通-2. 調査研究活動への学会補助額について 領域共通-3. 共通費の賦課について 領域共通-4. シンポジウム事務諸費について	選定⇒ 理事会提案 承認 承認 承認
2014年10月1日	領域共通-1. 研究会の継続・新設・名称変更 領域共通-2. 2015年度研究会登録費算定方法 領域共通-3. 2014年度活動状況 領域共通-4. 研究会への依頼事項：収支改善/研究会毎の賞の授与など	承認⇒ 調査研究運営委員会へ提案/報告 確認・承認 確認 確認
2015年2月20日	領域共通-1. 財務委員の改選 領域共通-2. 2014年度活動状況/2015年度計画 領域共通-3. 中長期計画/事業報告/事業計画	確認・承認 確認 確認

### 2.3 情報環境領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△菊池浩明、○小林 稔、石川憲洋、市村 哲、岩田 彰、柿本正憲、亀山 涉、河野恭之、齋藤正史、重野 寛、角 康之、刀川 真、塚本昌彦、中挾知延子、西垣正勝、野本忠司、山井成良、渡邊 晃

[7月14日、9月30日、'15年2月24日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

### 2.4 メディア知能情報領域委員会（山下記念研究賞選定委員会を兼ねる）

◎/△片寄晴弘、○徳永健伸、伊藤毅志、乾健太郎、梶田将司、金子 格、倉本 到、栗原 聡、阪田真己子、篠田浩一、杉本晃宏、関嶋政和、西田知博、平賀瑠美

[7月30日、9月17日、'15年2月25日] コンピュータサイエンス領域委員会の領域共通事項に同じ。

## 3. 人材育成活動

### 3.1 資格制度運営委員会 ※傘下のWGは掲載略

◎旭 寛治、赤津雅晴、浦本直彦、落谷 亮、折原良平、寛 捷彦、掛下哲郎、齋藤正史、芝田 晃、西 直樹、吉野松樹

[4月22日、5月19日、6月12日、7月31日、8月22日、9月29日、10月20日、12月1日、'15年1月13日、2月13日、3月16日]

認定情報技術者制度の検討

### 3.2 情報処理教育委員会（教育賞選定委員会を兼ねる） ※傘下の委員会は掲載略

◎寛 捷彦、○佐渡一広、○角田博保、△松原 仁、△河原達也、阿草清滋、位野木万里、牛島和夫、大岩 元、掛下哲郎、金寺 登、神沼靖子、川合 慧、河村一樹、久野 靖、黒川恒雄、児玉公信、駒谷昇一、齋藤俊則、佐々木良一、清水尚彦、武井恵雄、辰己丈夫、富樫 敦、都倉信樹、富田悦次、中森真理雄、中山泰一、西田知博、萩谷昌己、疋田輝雄、福田 晃、本位田真一、松永賢次、望月徹英、山本昌弘、弓場敏嗣、吉澤康文、吉村 晋、和田 勉

[4月22日、6月9日、7月22日、9月9日、11月10日、'15年1月15日、2月 日、3月 日]

JABEE対応/J17準備/情報学分野の参照基準/次期学習指導要領改訂/免許更新講習/傘下の小委員会報告ほか

#### 4. 事業活動

##### 4.1 事業運営委員会

◎/△安本慶一、○/△住田一男、△片寄晴弘

[電子メールベース] 全国大会、FIT、その他イベントの運営推進

##### 4.2 全国大会組織委員会 ※プログラム委員会、現地実行委員会は掲載略

◎/△徳田英幸、○/△安本慶一、△住田一男、△菊池浩明、黒橋禎夫

[7月23日、ほか電子メールベース] 全国大会の運営・開催推進

##### 4.3 FIT運営委員会 ※情報科学技術推進委員会・幹事会・実行委員会・プログラム委員会は掲載略

◎安浦寛人、○/△中田登志之、△徳田英幸、△住田一男、△清木 康、美濃導彦、佐藤 敦、坂井修一、中村裕一、△安本慶一、△菊池浩明、境田慎一、堀田政二、数井君彦、谷口行信

[7月24日、11月5日、ほか電子メールベース] FITの運営・開催推進

##### 4.4 プログラミング・シンポジウム幹事会 ※運営委員会は掲載略

◎岩崎英哉、長 慎也、中山心太、松崎公紀、三好健文、山田浩史、横山大作

[6月3日、8月22日、10月14日、12月16日、'15年2月24日] 夏のプロシン/若手の会/冬のプロシンの開催推進

##### 4.5 コンピュータ将棋『あから』強化推進委員会

◎松原 仁、△安本慶一、△住田一男、飯田弘之、伊藤毅志、柿木義一、金子知適、岸本章宏、小谷善行、柴山悦哉、関口智嗣、瀧澤武信、田中哲朗、棚瀬 寧、近山 隆、鶴岡慶雅、中島 浩、橋本 剛、保木邦仁、山下 宏、横山大作、吉野松樹、\*湖東俊彦

[電子メールベース] コンピュータ将棋とプロ棋士の対戦推進

##### 4.7 プログラミングコンテスト委員会

◎鷺崎弘宜、\*竹内郁雄、坂本一憲、佐藤靖治、高田真吾、田中哲朗、近山 隆、新田 淳 本田 澄、松原 仁、安本慶一、吉野松樹

[4月21日、5月23日、7月16日、8月29日、10月24日、11月21日、12月9日、'15年1月13日]

プログラミングコンテストの開催推進

##### 4.8 技術応用運営委員会

◎寺中勝美、●中田登志之、○浦本直彦、齋藤正史、松尾昭彦、岩寄正明、阿野茂浩、平田圭二、旭 寛治

[4月14日、6月24日、12月12日ほか電子メールベース] 技術応用活動全体の調整・推進

##### 4.9 ITプロフェッショナル委員会 (高度IT資格関連WGの活動により休眠)

##### 4.10 セミナー推進委員会

◎浦本直彦、●齋藤正史、赤津雅晴、中野美由紀、平手勇宇、杉田由美子、位野木万里、神島万喜也、菊池浩明

[4月8日、6月25日、8月4日、9月9日、10月6日、11月27日、'15年1月13日、2月13日] 連続セミナー・短期セミナーの開催推進

##### 4.11 ITフォーラム推進委員会 ※ソフトウェアジャパン関連委員会は掲載略

◎浦本直彦、○齋藤正史、諏訪良武、菟川友宏、位野木万里、掛下哲郎、宮崎義文、森川博之、戸辺義夫、石井一夫

[6月24日 ほか電子メールベース] ITフォーラム・ソフトウェアジャパンの運営推進

#### 5. 会誌

##### 5.1 会誌編集委員会

◎塚本昌彦、△加藤由花、△角 康之、五十嵐悠紀、小野寺民也、金岡 晃、河口信夫、木下哲男、谷 幹也、田村 大、辻田 眸、鶴岡慶雅、土井千草、永野秀尚、西山博泰、坊農真弓、松崎公紀、村上知子、吉岡信和、西澤 裕、高岡詠子、濱崎雅弘、三輪 忍、松田一孝

[4月11日、5月1日、6月10日、7月3日、9月10日、10月2日、11月6日、12月2日、'15年1月8日、2月10日、3月5日]

全回共通：会誌の編集刊行

## 6. 機関誌／出版活動

### 6.1 学会論文誌運営委員会

◎/△乾健太郎、相澤彰子、片寄晴弘、菊池浩明、清木 康

[電子メールベース] 論文誌全体に関する諸課題の対応

### 6.2 JIP編集委員会（幹事会）

◎岡部寿男、○/△乾健太郎、○/△相澤彰子、ほか「6.3 ジャーナル編集委員会（幹事会）」メンバ  
\* Adam KOZYNIAK、\* Mamadou Tadiou KONÉ、\* Michael ENG、\* Monica CARLY、\* Raymond WAN、\* Robert DELANEY、\* Sylvain KAMDEM  
[海外編集委員] Calton PU（アメリカ）、Hee-Kap AHN（韓国）、Jeffrey Xu YU（香港）、Kunsoo PARK（韓国）、  
Rémi COULOM（フランス）、Seiji ISOTANI（ブラジル）、Takashi MIYAKI（ドイツ）、Winston SEAH（ニュージーランド）、  
Won-Gyu LEE（韓国）、Xiaofang ZHOU（オーストラリア）

[4月4日、5月16日、6月17日、7月11日、9月12日、10月8日、11月10日、12月3日、'15年1月7日、2月4日、3月4日]

全回共通：JIPの編集刊行

### 6.3 論文誌ジャーナル編集委員会（幹事会）

◎/△乾健太郎、○/△相澤彰子、井口 寧、堀山貴史、立石孝彰、鈴木幸太郎、今泉貴史、重安哲也、藤井秀樹、飯田 龍、  
藤田桂英、吉高淳夫、中山泰一、豊浦正広

[4月4日、5月16日、6月17日、7月11日、9月12日、10月8日、11月10日、12月3日、'15年1月7日、2月4日、3月4日]

全回共通：論文誌ジャーナルの編集刊行

### 6.3 トランザクション編集会議

◎/△乾健太郎、岡田謙一、角田博保、城 和貴、須田礼仁、関 洋平、関嶋政和、高橋 修、富山宏之、中野美由紀、南出靖彦、  
八木康史、山名早人

[4月18日、10月8日ほか、電子メールベース] トランザクションの編集刊行に関する諸課題の対応

### 6.4 デジタルプラクティス編集委員会

◎平田圭二、●茂木 強、●吉野松樹、青山幹雄、赤津雅晴、伊藤 智、位野木万里、△浦本直彦、海老原吉晶、黒橋禎夫、  
△齋藤正史、澤谷由里子、住田一男、谷口倫一郎、中野美由紀、中村祐一、平木 敬、平山雅之、福島俊一、富士 仁、藤瀬哲朗、  
藤原陽子、峯松信明、\*喜連川 優

[4月25日、5月30日、6月27日、8月1日、9月25日、10月30日、11月26日、12月17日、'15年1月22日、2月19日、3月26日]

全回共通：デジタルプラクティスの編集刊行

### 6.5 デジタルコンテンツ事業検討委員会

◎/△徳田英幸、△松尾昭彦、相澤彰子、安達 淳、今村 誠、浦本直彦、片寄晴弘、加藤由花、住田一男、高橋克巳、塚本昌彦、  
平田圭二

[8月6日、ほか電子メールベース] デジタルコンテンツ事業の推進

## 6.6 出版委員会

### 6.6.1 教科書編集委員会

◎阪田史郎、△加藤由花、△角 康之、井戸上彰、大河内正明、菊池浩明、駒谷昇一、坂下善彦、辰己丈夫、田名部元成、平山雅之、  
山本里枝子

[6月26日、9月29日、12月15日、'15年3月30日] 教科書シリーズの刊行に関する検討

### 6.7 歴史特別委員会（傘下の小委員会は掲載略）

◎笈田 弘、○旭 寛治、△加藤由花、△角 康之、宇田 理、浦城恒雄、富田達夫、橋爪宏達、前島正裕、松永俊雄、山田昭彦、  
\*弘末清悟

[4月14日、7月7日、9月5日、10月10日、'15年1月14日]

コンピュータに関する歴史の公開推進、情報処理技術遺産等の認定ほか

### 6.8 著作権委員会

◎加藤由花、○角 康之、相澤彰子、天野真家、乾健太郎、浦本直彦、大谷和子、片寄晴弘、菊池浩明、清木 康、杉本重雄、  
妹尾義樹、長谷川亨、平田圭二

[電子メールベース] 知的財産権専門委員推薦、その他著作権に関する対応



## 7. 標準化活動

### 7.1 情報規格調査会（規格役員会）

◎/△伊藤 智、○河合和哉、○松本隆明、△岩岸正明、落合真一、櫻井義人、成井良久、福田昭一、本庄利守、\*岩永敏明

[4月7日、5月9日、6月12日、7月7日、9月8日、10月20日、11月26日、12月19日、'15年1月19日、2月9日、3月9日]

規格賛助員の入退会等／委員変更／国際会議派遣・招致／月次決算／JTC1総会対応／標準化関連受託対応ほか

## 8. 国際活動

### 8.1 IFIP委員会

☆村山優子（IFIP日本代表）、◎/△菊池浩明、○/△清木 康、○/△片寄晴弘、小林直樹、胡 振江、齋藤俊則、中野 冠、相田 仁、亀田壽夫、内木哲也、小向太郎、金川信康、栗原 聡、北村喜文、星野准一、芝田 晃

[11月13日] IFIP年次総会報告／各TCの活動報告ほか。

## 9. 上記以外の委員会および委員は次サイトを参照

<http://www.ipsj.or.jp/annai/committee/meibo/2014/2014meibo.html>

## 付2. 研究会および研究発表・学術講習会等一覧

### 【研究会等の詳細】

研究会等の名称（（ ）内：英略称、*：研究グループ）	主査名（運営委員数）	登録者数
【コンピュータサイエンス領域】		
データベースシステム (DBS)	森嶋厚行 (48)	475
ソフトウェア工学 (SE)	鷗林尚靖 (53)	521
計算機アーキテクチャ (ARC)	五島正裕 (29)	379
システムソフトウェアとオペレーティング・システム (OS)	河野健二 (35)	312
システムとLSIの設計技術 (SLDM)	福井正博 (33)	259
ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC)	横川三津夫 (37)	548
プログラミング (PRO)	南出靖彦 (29)	359
アルゴリズム (AL)	上原隆平 (23)	204
数理モデル化と問題解決 (MPS)	庄野逸 (31)	305
組込みシステム (EMB)	枝廣正人 (31)	268
【情報環境領域】		
マルチメディア通信と分散処理 (DPS)	重野寛 (44)	371
ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)	河野恭之 (38)	512
グラフィクスとCAD (CG)	柿本正憲 (30)	279
情報システムと社会環境 (IS)	刀川 眞 (20)	185
情報基礎とアクセス技術 (IFAT)	野本忠司 (21)	182
オーディオビジュアル複合情報処理 (AVM)	亀山 涉 (14)	79
グループウェアとネットワークサービス (GN)	市村 哲 (33)	256
デジタルドキュメント (DD)	中挾知延子 (14)	100
モバイルコンピューティングとユビキタス通信 (MBL)	渡邊 晃 (42)	350
コンピュータセキュリティ (CSEC)	西垣正勝 (47)	521
高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS)	齋藤正史 (20)	164
ユビキタスコンピューティング (UBI)	角 康之 (28)	284
インターネットと運用技術 (IOT)	山井成良 (42)	409
セキュリティ心理学とトラスト (SPT)	岩田 彰 (30)	96
コンシューマ・デバイス&システム (CDS)	石川憲洋 (39)	173
デジタルコンテンツクリエーション (DCC)	塚本昌彦 (25)	100
【メディア知能情報領域】		
自然言語処理 (NL)	乾 健太郎 (23)	474
知能システム (ICS)	栗原 聡 (5)	225
コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)	杉本晃宏 (60)	576
コンピュータと教育 (CE)	西田知博 (49)	524
人文科学とコンピュータ (CH)	阪田真己子 (26)	222
音楽情報科学 (MUS)	平賀瑠美 (33)	373
音声言語情報処理 (SLP)	篠田浩一 (25)	223
電子化知的財産・社会基盤 (EIP)	金子格 (17)	119
ゲーム情報学 (GI)	伊藤毅志 (21)	253
エンタテインメントコンピューティング (EC)	倉本 到 (25)	207
バイオ情報学 (BIO)	関嶋政和 (15)	123
教育学習支援情報システム (GLE)	梶田将司 (19)	174
*ネットワーク生態学 (NE)	林 幸雄 (一)	---
*会員の力を社会につなげる (SSR)	寛 捷彦 (一)	---

1. 研究発表会（調査研究活動分）

1.1 コンピュータサイエンス領域

1.1.1 データベースシステム研究発表会

回次	開催年月	場所	発表件数	参加者数	共催団体、その他備考
第159回	2014年8月1日～2日	九州大学	27	49	電子情報通信学会
第160回	2014年11月18日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	28	59	

1.1.2 ソフトウェア工学研究発表会

第184回	2014年5月19日～20日	日立製作所 日立研究所	10	18	
第185回	2014年7月9日～11日	富良野文化会館	27	49	電子情報通信学会
第186回	2014年11月13日～14日	大阪大学	20	45	
第187回	2015年3月12日～13日	化学会館	47	96	

1.1.3 計算機アーキテクチャ研究発表会

第202回	2014年5月14日～15日	沖縄船員会館	18	26	
第203回	2014年7月28日	朱鷺メッセ	15	76	
第204回	2014年10月6日～7日	ホテルニューツルタ	20	34	
第205回	2014年12月9日～10日	小樽経済センター	32	45	
第206回	2015年1月29日～30日	慶應義塾大学日吉キャンパス	9	34	電子情報通信学会

1.1.4 システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会

第129回	2014年5月14日～15日	沖縄船員会館	18	28	
第130回	2014年7月28日～29日	朱鷺メッセ	24	81	
第131回	2014年11月18日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	28	46	
第132回	2015年2月26日～27日	長崎大学	16	35	

1.1.5 システムとLSIの設計技術研究発表会

第166回	2014年5月29日	北九州国際会議場	13	63	電子情報通信学会
第167回	2014年10月2日～3日	東北大学	12	56	電子情報通信学会
第168回	2014年11月26日～28日	ビーコンプラザ	46	38	電子情報通信学会
第169回	2015年1月29日～30日	慶應義塾大学日吉キャンパス	43	99	電子情報通信学会
第170回	2015年3月6日～7日	奄美市社会福祉協議会	53	35	電子情報通信学会

1.1.6 ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会

第144回	2014年5月26日～27日	海洋研究開発機構	17	90	
第145回	2014年7月28日～30日	朱鷺メッセ	46	181	
第146回	2014年10月2日～3日	沖縄産業支援センター	24	57	
第147回	2014年12月9日～10日	小樽経済センター	32	70	
第148回	2015年3月2日～3日	花菱ホテル	37	104	

1.1.7 プログラミング研究発表会

第99回	2014年6月19日～20日	旭川市民文化会館	6	14	
第100回	2014年7月30日	朱鷺メッセ	9	26	
第101回	2014年11月10日～11日	東京大学	10	37	
第102回	2015年1月13日～14日	宮崎大学	7	16	
第103回	2015年3月9日～10日	産業技術総合研究所	12	52	

1.1.8 アルゴリズム研究発表会

第148回	2014年6月13日～14日	道後温泉 大和屋	19	65	電子情報通信学会
第149回	2014年9月12日	伝国の杜	9	10	
第150回	2015年11月20日～21日	大演信泉記念館	29	57	電子情報通信学会
第151回	2015年1月13日～14日	名古屋工業大学	9	26	
第152回	2015年3月3日	電気通信大学	10	22	併催：組合せゲーム・パズル研究集会

### 1.1.9 数理モデル化と問題解決研究発表会

第98回	2014年6月25日～27日	沖縄科学技術大学院大学	43	37	電子情報通信学会
第99回	2014年7月21日	Monte Carlo	13	18	
第100回	2014年9月25日～26日	日本科学未来科学館	27	65	
第101回	2014年12月9日	奈良女子大	14	35	
第102回	2015年3月3日～4日	長崎県島原文化会館	22	48	

### 1.1.10 組込みシステム研究発表会

第33回	2014年5月19日～20日	日立製作所日立研究所	10	24	
第34回	2014年9月17日	札幌市男女共同参画センター	5	10	
第35回	2014年11月18日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	28	42	
第36回	2015年3月6日～7日	奄美市社会福祉協議会	53	47	電子情報通信学会

## 1.2 情報環境領域

### 1.2.1 マルチメディア通信と分散処理研究発表会

第159回	2014年5月15日～16日	健康文化村	34	54	電子情報通信学会
第160回	2014年7月24日～25日	平泉ホテル武蔵坊	11	19	
第161回	2014年9月18日～19日	東海大学 熊本キャンパス	17	31	
第162回	2015年3月5日～6日	法政大学 小金井キャンパス	55	58	

### 1.2.2 ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会

第158回	2014年5月22日	津田塾大学	7	40	
第159回	2014年8月4日～5日	花巻温泉	14	33	
第160回	2014年10月14日	沖縄科学技術大学院大学	24	27	
第161回	2015年1月14日	箕面観光ホテル	12	25	
第162回	2015年3月13日～14日	お茶の水女子大学	22	65	

### 1.2.3 グラフィクスとCAD研究発表会

第155回	2014年6月28日	NTT横須賀研究開発センター	13	41	
第156回	2014年9月16日	中京大学 名古屋キャンパス	9	26	
第157回	2014年11月20日～21日	早稲田大学	24	40	
第158回	2015年2月27日～28日	理化学研究所	14	48	CG-ARTS協会

### 1.2.4 情報システムと社会環境研究発表会

第128回	2014年6月6日	東海大学 高輪キャンパス	6	17	
第129回	2014年9月10日～11日	愛媛大学	6	13	
第130回	2014年12月8日	産業大学院大学	9	20	
第131回	2015年3月6日	東京電機大学 東京千住キャンパス	9	21	

### 1.2.5 情報基礎とアクセス技術研究発表会

第115回	2014年8月1日～2日	九州大学	27	33	電子情報通信学会
第116回	2014年11月11日	筑波大学 東京キャンパス	6	14	
第117回	2015年2月6日	大阪TOG会議室	2	2	
第118回	2015年3月30日	東洋大学 白山キャンパス	9	11	

### 1.2.6 オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会

第85回	2014年8月1日	千葉工業大学	12	50	映像情報メディア学会電子情報通信学会
第86回	2014年9月11日～12日	庄内産業振興センター	18	53	電子情報通信学会
第87回	2014年12月4日～5日	大阪大学	15	46	映像情報メディア学会電子情報通信学会
第88回	2015年2月27日	ているる	6	14	

1.2.7 グループウェアとネットワークサービス研究発表会

第92回	2014年5月15日～16日	早稲田大学	18	23	電子情報通信学会
第93回	2015年1月26日～27日	香岐文化ホール	50	19	
第94回	2015年3月12日～13日	駒澤大学 駒沢キャンパス	23	47	

1.2.8 デジタルドキュメント研究発表会

第94回	2014年7月24日	広島大学 東京オフィス	7	19	
第95回	2014年10月3日	印刷博物館	6	13	
第96回	2014年11月21日	セコムホール	4	20	
第97回	2015年3月30日	東洋大学 白山キャンパス	9	16	

1.2.9 モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会

第71回	2014年5月15日～16日	健康文化村	34	60	電子情報通信学会
第72回	2014年8月27日～29日	横浜市技能文化会館	20	35	
第73回	2014年11月20日～21日	福岡大学	28	41	
第75回	2015年3月2日～3日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	58	33	電子情報通信学会

1.2.10 コンピュータセキュリティ研究発表会

第65回	2014年5月22日	ホルトホール大分	31	46	電子情報通信学会
第66回	2014年7月3日	サン・リフレ函館	51	39	電子情報通信学会
第67回	2014年12月5日	東京理科大学	7	34	日本セキュリティ・マネジメント学会
第68回	2015年3月5日～6日	法政大学 小金井キャンパス	55	75	

1.2.11 高度交通システムとスマートコミュニティ研究発表会

第57回	2014年6月20日	グランフロント大阪	3	10	
第58回	2014年9月19日	鳥取大学	14	49	電子情報通信学会併催：電気学会
第59回	2014年11月20日～21日	福岡大学	28	21	
第60回	2015年3月4日	大阪大学 東京オフィス	8	21	

1.2.12 ユビキタスコンピューティングシステム研究発表会

第42回	2014年5月29日～30日	富山国際会議場	13	35	
第43回	2014年7月28日～29日	国立情報学研究所	15	57	電子情報通信学会
第44回	2014年10月14日	沖縄科学技術大学院大学	24	20	
第45回	2015年3月2日～3日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	58	58	電子情報通信学会

1.2.13 インターネットと運用技術研究発表会

第25回	2014年5月22日	ホルトホール大分	31	48	電子情報通信学会
第26回	2014年6月28日	新潟大学	12	59	
第27回	2014年10月9日～10日	岩手県立大学	20	38	
第28回	2015年3月5日～6日	小名浜オーシャンホテル	46	109	電子情報通信学会

1.2.14 セキュリティ心理学とトラスト研究発表会

第9回	2014年5月15日～16日	早稲田大学	18	15	電子情報通信学会
第10回	2014年7月3日～4日	サン・リフレ函館	51	15	電子情報通信学会
第11回	2014年10月9日～10日	岩手県立大学	20	9	
第12回	2015年11月21日	新潟大学	18	21	

1.2.15 コンシューマ・デバイス&システム研究発表会

第10回	2014年5月22日～23日	北海道大学	15	42	
第11回	2014年8月28日～29日	横浜市技能文化会館	16	30	
第12回	2015年1月26日～27日	香岐文化ホール	50	44	

1.2.16 デジタルコンテンツクリエイション研究発表会

第7回	2014年5月14日～15日	情報セキュリティ大学	20	30	電子情報通信学会
第8回	2014年11月21日	筑波大学	14	19	
第9回	2015年1月26日～27日	杏岐文化ホール	50	24	

1.3 メディア知能情報領域

1.3.1 自然言語処理研究発表会

第216回	2014年5月22日～23日	東京工業大学	22	59	
第217回	2014年7月3日～4日	オホーツク・文化交流センター	16	14	
第218回	2014年9月1日～2日	首都大学東京	9	54	
第219回	2014年12月16日～17日	東京工業大学	23	38	電子情報通信学会
第220回	2015年1月19日～20日	九州大学医学部百年講堂	15	40	

1.3.2 知能システム研究発表会

第176回	2015年7月22日～23日	沖縄科学技術大学院大学	12	16	
第177回	2015年12月5日	ダウンゴ	13	20	
第178回	2015年3月1日～4日	ルスツリゾートホテル	14	3	連続開催：人工知能学会, 電子情報通信学会
第179回	2015年3月20日	名古屋工業大学	21	32	

1.3.3 コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会

第192回	2014年5月15日～16日	近畿大学	35	89	
第193回	2014年9月1日～2日	筑波大学	25	43	電子情報通信学会
第194回	2014年11月20日～21日	早稲田大学	24	59	
第195回	2015年1月22日～23日	奈良先端科学技術大学院大学	65	86	電子情報通信学会日本バーチャルリアリティ学会
第196回	2015年3月6日～7日	東北大学 片平さくらホール	21	62	

1.3.4 コンピュータと教育研究発表会

第125回	2014年6月7日	はこだて未来大学	9	25	
第126回	2014年10月11日～12日	奈良女子大学	13	47	
第127回	2014年12月6日～7日	九州大学	12	44	
第128回	2015年2月14日～15日	大阪学院大学	22	81	
第129回	2015年3月21日～22日	筑波大学 東京キャンパス文京校舎	26	98	

1.3.5 人文科学とコンピュータ研究発表会

第102回	2014年5月31日	桜美林大学	12	33	
第103回	2014年8月2日	兵庫県立歴史博物館	12	37	
第104回	2014年10月18日	関西大学 千里山キャンパス	10	30	
第105回	2015年1月31日	大阪国際大学	11	32	

1.3.6 音楽情報科学研究発表会

第103回	2014年5月24日～25日	日本大学	79	258	電子情報通信学会
第104回	2014年8月25日～8月27日	京都大学	24	95	
第105回	2014年11月20日～21日	筑波大学	14	46	
第106回	2015年3月2日～3日	甲府富士屋ホテル	26	60	

1.3.7 音声言語情報処理研究発表会

第101回	2014年5月22日～23日	東京工業大学	22	55	
第102回	2014年7月24日～26日	ホテル花巻	10	40	併催：電子情報通信学会
第103回	2014年10月24日	NHK放送技術研究所	6	35	
第104回	2014年12月15日～16日	東京工業大学	30	63	電子情報通信学会
第105回	2015年2月27日～28日	合歓の郷ホテル&リゾート	13	45	

1.3.8 電子化知的財産・社会基盤研究発表会

第64回	2014年5月14日～15日	情報セキュリティ大学院大学	20	29	電子情報通信学会
第65回	2014年9月18日～19日	東海大学 熊本キャンパス	17	20	
第66回	2014年11月21日	新潟大学	18	27	
第67回	2015年2月28日	神戸学院大学	9	16	

1.3.9 ゲーム情報学研究発表会

第32回	2014年7月5日	香川大学	5	26	
第33回	2015年3月5日～6日	東京大学 駒場キャンパス	18	67	

1.3.10 エンタテインメントコンピューティング研究発表会

第32回	2014年6月6日～7日	日本大学	29	45	電子情報通信学会
第33回	2014年8月22日～23日	京都 くらま温泉	7	17	
第34回	2014年12月19日～20日	九州大学	11	27	
第35回	2015年3月2日～3日	甲府富士屋ホテル	26	34	

1.3.11 バイオ情報学研究発表会

第38回	2014年6月25日～27日	沖縄科学技術大学院大学	43	44	電子情報通信学会
第39回	2014年9月19日	大阪大学吹田キャンパス	5	11	
第40回	2014年12月18日	産業技術総合研究所	7	14	
第41回	2015年3月20日	北海道大学	14	24	

1.3.12 教育学習支援情報システム研究発表会

第13回	2014年5月16日～17日	京都大学	12	62	
第14回	2014年10月24日～25日	東北大学	10	26	電子情報通信学会
第15回	2015年1月31日	東京学芸大学	6	55	

## 2. シンポジウム等

### 2.1 調査研究活動分

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOM2014) シンポジウム	2014年7月9日～11日	月岡温泉 ホテル泉慶	295	408
iDBフォーラム2014	2014年7月31日～8月2日	九州大学 医学部 百年講堂	23	63
情報教育シンポジウム2014 (SSS2014)	2014年8月24日～26日	オリビアン小豆島ホテル	42	86
DAシンポジウム2014	2014年8月28日～29日	ホテル下呂温泉 水明館	59	117
ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2014 (SES2014)	2014年9月1日～3日	芝浦工業大学 芝浦キャンパス	53	137
エンタテインメントコンピューティング シンポジウム (EC2014)	2014年9月12日～14日	明治大学 中野キャンパス	64	226
組込みシステムシンポジウム2014 (ESS2014)	2014年10月22日～24日	国立オリンピック記念青少年センター	38	186
コンピュータセキュリティシンポジウム (CSS2014)	2014年10月22日～24日	札幌コンベンションセンター	179	480
SOUPS2014論文読破会	2014年10月31日	セコム本社	17	23
ゲームプログラミングワークショップ2014 (GPW2014)	2014年11月7日～9日	箱根セミナーハウス	35	89
Webとデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum 2014)	2014年11月19日～20日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	39	283
コンピュータシステム・シンポジウム (ComSys2014)	2014年11月19日～20日	芝浦工業大学 豊洲キャンパス	22	52
グループウェアとネットワークサービス ワークショップ2014	2014年11月27日～28日	ニューウェルシティ 湯河原	22	43
インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2014)	2014年12月4日～5日	立命館大学 びわこ・くさつキャンパス	16	83
マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2014)	2014年12月8日～10日	出雲・玉造温泉 ホテル玉泉	47	90
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2014)	2014年12月13日～14日	一橋講堂 / 国立情報学研究所	34	115
情報アクセスシンポジウム (IAS) 2014	2014年12月15日	国立情報学研究所	5	30
災害コミュニケーションシンポジウム	2014年12月26日	京都大学 防災研究所	6	44
ウインターワークショップ2015・イン・大洗	2015年1月22日～23日	カルチャーリゾート フェストーネ	45	69
Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI2015)	2015年1月26日～28日	つくば国際会議場	48	115
高度交通システム2015シンポジウム	2015年1月30日	トヨタ博物館	6	71
インタラクシオン2015	2015年3月5日～7日	日本科学未来館	238	755

### 2.2 教育活動分

高校教科「情報」シンポジウム2014春 in 関西 —ジョーシンうめきたー	2014年5月17日	大阪工業大学	7	70
高校教科「情報」シンポジウム2014秋 —ジョーシン2014 —	2014年10月25日	早稲田大学	5	69

## 3. 事業活動

### 3.1 全国大会

名称	開催年月	場所	一般講演	招待講演	参加数
第77回全国大会	2015年3月17日～19日	京都大学 吉田キャンパス	1401	7	3610

### 3.2 FIT (情報科学技術フォーラム)

FIT2014 第13回情報科学技術フォーラム	2014年9月3日～5日	筑波大学 筑波キャンパス	501	1	1,223
-------------------------	--------------	--------------	-----	---	-------

※共催：電子情報通信学会 (情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ)



### 3.3 連続セミナー2014：テーマ「モバイル・クラウド時代のIT新潮流を読み解く」

名称	開催年月	場所	演題数	本会場 参加数	遠隔会場 参加数
予測と意思決定のためのアナリティクス技	2014年6月9日	各回とも 本会場：化学会館 遠隔会場：大阪大学中之 島センター	5	81	30
ウェアラブルが切り開くIT新潮流	2014年7月15日		5	72	8
モバイル・クラウド時代のソフトウェア開発技術	2014年9月25日		5	68	13
モバイル・クラウド時代を加速するIOT(Internet of Things)	2014年10月17日		6	54	9
モバイル・クラウド時代のデータプライバシー	2014年11月11日		5	55	9
アナリティクス適用事例	2014年12月1日		5	54	9

※協賛：情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報通信学会

### 3.4 短期集中セミナー

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
画像・音声符号化伝送技術～最前線と標準化動向～	2014年9月30日	化学会館	6	61	※協賛

※) 電子情報通信学会、映像情報メディア学会、IEEE東京支部

Exciting Coding! 2014～ITスペシャリストが語る「つながることの面白さ」～	2014年12月6日	GMO Yours	4	65	※協賛
---	------------	-----------	---	----	-----

※) The Linux Foundation、情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、日本情報システム・ユーザー協会

情報セキュリティ/プライバシーと国際標準～対策のための枠組みとその活用～	2015年2月26日	機械振興会館	3	56	※後援
--------------------------------------	------------	--------	---	----	-----

※) 情報処理推進機構

### 3.5 プログラミング・シンポジウム

名称	開催年月	場所	演題数	参加数
夏のプログラミング・シンポジウム2014	2014年8月24日	(株)ドリコム プレゼンテーションルーム	11	79
第47回情報科学若手の会	2014年9月13日～15日	山喜旅館	15	51
第56回プログラミング・シンポジウム	2015年1月9日～11日	ラフォーレ倶楽部 伊東温泉湯の庭	19	84

### 3.6 IPSJ International AI Programming Contest

名称	開催年月	場所	チーム数	参加数	備考
Samurai Coding 2014-15 (Final Round)	2015年3月18日	京都大学吉田キャンパス	16	55	※

※) 協賛：情報サービス産業協会、電子情報技術産業協会、電子情報通信学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、日本情報システム・ユーザー協会、IEEE-Computer Society、IEEE-Computer Society Japan Chapter、IEEE Japan Office、京都大学 情報学研究科、京都大学 学術情報メディアセンター、情報科学国際交流財団、The Korean Institute of Information Scientists and Engineers

後援：文部科学省、経済産業省、外務省、情報処理推進機構

イベントスポンサー：リクルートホールディングス/Indeed、ゴールドスポンサー：いい生活、日立製作所

## 4. 技術応用活動

### 4.1 個別ITフォーラム (7件)

名称	代表者名
サービスサイエンス	諏訪良武
ユニバーサルデザイン協創	菟川友宏
ITダイバーシティ	位野木万里
高度IT人材育成	掛下哲郎
コンタクトセンター	宮崎義文
IT未来人材	森川博之
ビッグデータ活用実務	石井一夫

#### 4.2 ITフォーラム関連のイベント

名称	開催年月	場所	演題数	参加数	備考
ソフトウェアジャパン2015 「ICTによるイノベーションの創出～スマートシティからオリンピック・パラリンピックまで～」	2015年2月3日	タワーホール船堀	4	459	※1,2

※1) 協賛：情報サービス産業協会、日本情報システム・ユーザー協会、電子情報技術産業協会、先端IT活用推進コンソーシアム、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、科学技術振興機構、国立情報学研究所、情報通信研究機構、データサイエンティスト協会、  
後援：文部科学省、経済産業省、総務省、独立行政法人 情報処理推進機構、スポンサー：8口、サポーター：32口、展示：5口  
※2) 招待講演4件のほか、パネル討論、SJアワードセレモニー、ITフォーラム7件（他団体連携2件（IPA・AIRC））、デモ1件を開催

#### 5. 支部活動（※役員会等は除く）

##### 5.1 北海道支部

- ・情報処理北海道シンポジウム2014（10月4日、はこだて未来大学） 演題数77件、参加者数128名
- ・支部講演会 4回（8月6日、9月9日、10月23日、12月6日）

##### 5.2 東北支部

- ・電気関係学会東北支部連合大会（8月21-22日、山形大学） 演題数260件、参加者数550名
- ・支部研究会 5回（12月1日、12月20日、1月31日、2月10日、'15年3月4日）
- ・支部講演会 2回（6月11日、'15年2月19日）

##### 5.3 東海支部

- ・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（9月8-9日、中京大学名古屋キャンパス） 演題数558件、参加者数1155名
- ・講演会 7回（5月19日、7月4日、9月27日、10月22日、11月5日、12月3日、'15年1月30日）
- ・研究会 9回（協賛等）

##### 5.4 北陸支部

- ・特別講演会 1回（5月30日）
- ・研究講演会 2回（11月28日、'15年3月5日）
- ・電気関係学会北陸支部連合大会（9月11-12日、富山高等専門学校本郷キャンパス） 演題数300件、参加者数600名
- ・北陸地区学生による研究発表会（'14年3月8日、富山高専）

##### 5.5 関西支部

- ・関西支部支部大会（9月17日、大阪大学中之島センター） 演題数77件、参加者数166名
- ・支部研究会：社会知能研究会 2回（7月2日、9月17日）、並列分散処理研究会 1回（9月17日）、ネットワークサービス研究会 1回（9月17日）、グリーン組込みコンピューティング研究会 1回（9月17日）
- ・支部セミナー 3回（7月27日、8月20・25日、11月5・12日）
- ・講演会 1回（12月6日）
- ・連続セミナー2014（遠隔会場） 6回（6月9日、7月15日、9月25日、10月17日、11月11日、12月1日）

##### 5.6 中国支部

- ・電気・情報関係学会中国支部連合大会（10月25日、福山大学） 演題数 267件、参加者数437名
- ・講演会 14回（4月10・23日（2件）、5月16日（2件）、7月1・14・24日、10月31日、12月5日、'15年1月7・21日、2月5・17日）
- ・講習会 3回（7月23日、9月16日、10月31日）
- ・中国支部30周年記念式典（10月24日、福山ニューキャッスルホテル） 出席者37名、特別記念講演会

##### 5.7 四国支部

- ・電気系学会四国支部連合大会（9月13日、徳島大学） 発表者数346名、参加者数573名
- ・共催事業 6回（8月12日、8月24-26日、9月25日、10月18-19日、11月14日、'15年3月12-3日）
- ・講演会 7回（5月28日、6月6日（2件）、7月23日、11月28日、12月12日、'15年1月、2月）

##### 5.8 九州支部

- ・電気関係学会九州支部連合大会（9月18-19日、鹿児島大学） 講演数536件、聴講者数853名
- ・若手の会セミナー（9月8-9日、玄海ロイヤルホテル） 参加者数19名
- ・火の国情報シンポジウム（'15年3月5日-6日、佐賀大学）
- ・講演会等 2回（6月25日、10月3日）

### 付3. 刊行物（機関誌・図書）一覧

#### 1. 会誌「情報処理」（月刊）

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				記事数	本文頁数	広告頁数
2014年4月15日	55	5	次世代ライブラリ	19	91	6
2014年5月15日	55	6	マルチエージェントシミュレーション	20	107	6
2014年6月15日	55	7	増加する社会インフラを標的としたサイバー攻撃／量子コンピュータ	26	147	6
2014年7月15日	55	8	（続）スーパーコンピュータ「京」の利用／第3回将棋電王戦を振り返って	41	123	6
2014年8月15日	55	9	サイバーフィジカルシステム／ビッグデータ：世界を変えていくイノベーションの原動力として	73	155	6
2014年9月15日	55	10	続・ソフトウェア工学の共通問題／モノづくりの現在—DIYから製造まで—	24	121	8
2014年10月15日	55	11	オリンピックのための情報処理／モバイル時代のサービスを支える技術	27	144	8
2014年11月15日	55	12	パーソナルデータの利活用における技術および各国法制度の動向	21	133	4
2014年12月15日	56	1	類とICTの未来：シンギュラリティまで30年？／分野を超えたものづくりと教育—組込みシステム開発教育のためのロボットチャレンジ—	35	131	6
2015年1月15日	56	2	ウェルネスのためのICT／情報オリンピック	19	93	4
2015年2月15日	56	3	OSSIに見るITの最新動向	19	91	6
2015年3月15日	56	4	初等中等教育におけるICTの活用／私の大学時代—新世界に踏み出す皆さんへ—	45	117	4

#### 2. 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」（月刊）

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	特集テーマ	その他参考		
				論文数	テクニカルノート数	本文頁数
2014年4月15日	55	4	Multiagent-based Societal Systems／インタラクションの理解および基盤・応用技術	39	0	216
2014年5月15日	55	5	情報システムの新展開	13	2	148
2014年6月15日	55	6	Applications and the Internet in Conjunction with Main Topics of COMPSAC2013	14	0	37
2014年7月15日	55	7	---	8	0	79
2014年8月15日	55	8	地域貢献・復興／組込みシステム工学	29	0	229
2014年9月15日	55	9	新しいリスクに対応するコンピュータセキュリティ技術	31	1	300
2014年10月15日	55	10	---	9	0	82
2014年11月15日	55	11	ゲームプログラミング	21	0	171
2014年12月15日	55	12	---	9	0	84
2015年1月15日	56	1	洗練された社会を作り上げるモバイル通信と高度交通システム／新しい時代に向けて英知を結集するコラボレーション技術とネットワークサービス／ユビキタスコンピューティングシステム(IV)	39	1	419
2015年2月15日	56	2	ネットワークサービスと分散処理／ソフトウェア工学／組込みシステム工学	34	1	333
2015年3月15日	56	3	仮想化時代の情報セキュリティと運用技術／学生・若手研究者論文	46	0	388

3. 「Journal of Information Processing (JIP)」 (季刊)

※オンライン刊行のみ

発行年	巻	号	備考	その他参考		
				論文数	付加ノート数	本文頁数
2014年4月15日	22	2		33	0	321
2014年7月15日	22	3		14	0	139
2014年10月15日	22	4		15	1	145
2015年1月15日	23	1		8	0	92
2015年3月15日	23	2		15	0	145

4. 「情報処理学会論文誌 (トランザクション)」 (不定期、8誌)

※オンライン刊行のみ

発行年月日	巻	号	トランザクション名	その他参考	
				論文数	本文頁数
2014年6月10日	7	2	プログラミング	3	42
2014年7月14日	7	3	プログラミング	4	53
2014年8月29日	7	4	プログラミング	3	40
2014年12月5日	7	5	プログラミング	1	22
2014年11月27日	7	2	数理モデル化と応用	7	85
2015年3月30日	8	1	数理モデル化と応用	11	109
2014年6月30日	7	2	データベース	11	134
2014年9月26日	7	3	データベース	1	13
2014年12月29日	7	4	データベース	2	28
2015年3月30日	8	1	データベース	7	87
2014年5月15日	7	2	コンピューティングシステム	2	24
2014年8月19日	7	3	コンピューティングシステム	4	46
2014年12月16日	7	4	コンピューティングシステム	7	83
2015年3月26日	8	1	コンピューティングシステム	5	20
2014年4月23日	4	1	コンシューマ・デバイス&システム	3	31
2014年6月11日	4	2	コンシューマ・デバイス&システム	1	9
2014年10月29日	4	3	コンシューマ・デバイス&システム	3	31
2014年12月10日	4	4	コンシューマ・デバイス&システム	1	10
2015年2月12日	5	1	コンシューマ・デバイス&システム	7	66
2015年3月27日	5	2	コンシューマ・デバイス&システム	1	8
2014年8月20日	2	2	デジタルコンテンツ	6	56
2015年2月27日	3	1	デジタルコンテンツ	3	32
2015年1月23日	1	1	教育とコンピュータ	3	17
2015年3月16日	1	2	教育とコンピュータ	3	27
2014年6月16日	7	-	Bioinformatics	1	8
2014年10月22日	7	-	Bioinformatics	1	6
2014年12月19日	7	-	Bioinformatics	1	9
2015年1月27日	8	-	Bioinformatics	1	7
2014年8月4日	7	-	System LSI Design Methodology	7	69
2015年2月12日	8	-	System LSI Design Methodology	4	49
2014年6月24日	6	-	Computer Vision and Applications	1	9
2014年7月25日	6	-	Computer Vision and Applications	12	59
2014年7月29日	6	-	Computer Vision and Applications	1	5
2014年8月4日	6	-	Computer Vision and Applications	1	5
2014年9月25日	6	-	Computer Vision and Applications	1	8
2014年10月21日	6	-	Computer Vision and Applications	1	9
2014年11月11日	6	-	Computer Vision and Applications	1	12
2014年12月10日	6	-	Computer Vision and Applications	2	28
2015年1月28日	7	-	Computer Vision and Applications	2	17
2015年2月16日	7	-	Computer Vision and Applications	2	17

5. 「情報処理学会デジタルプラクティス」(年4回)				その他参考	
発行年月日	巻	号	特集テーマ	論文数	本文頁数
2014年4月15日	5	2	ビッグデータ活用を支えるOSS	7	78
2014年7月15日	5	3	スマートシティ	9	90
2014年10月15日	5	4	モバイル時代のサービス	9	76
2015年1月15日	6	1	プライバシーフレンドリーシステム	7	76

6. その他出版(重版)

※いずれも、判型：A5、委託出版社名：オーム社

発行年月	書籍名	発行部数	本文頁数
2014年4月10日	IT textシリーズ プログラム仕様記述論 1版8刷	134	192
2014年4月15日	IT Textシリーズ データマイニングの基礎 1版6刷	400	286
2014年4月20日	IT Textシリーズ 人工知能 1版8刷	300	188
2014年4月10日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報とコンピューティング 1版11刷	300	212
2014年6月10日	IT textシリーズ 情報セキュリティ 1版11刷	400	268
2014年7月10日	IT textシリーズ 自然言語処理 1版6刷	400	182
2014年7月20日	IT textシリーズ コンピュータアーキテクチャ 1版11刷	500	236
2014年8月20日	IT textシリーズ コンパイラとバーチャルマシン 1版11刷	300	212
2014年8月20日	IT textシリーズ ヒューマンコンピュータインタラクション 1版15刷	1500	240
2014年8月20日	IT textシリーズ 音声認識システム 1版11刷	120	214
2014年8月30日	IT textシリーズ オペレーティングシステム 1版18刷	1500	230
2014年9月20日	IT textシリーズ 情報リテラシー 1版9刷	80	248
2014年9月20日	IT textシリーズ 応用Web技術 1版8刷	158	210
2014年10月10日	IT textシリーズ コンピュータグラフィックス 1版7刷	300	268
2014年10月10日	IT textシリーズ 情報と職業 1版12刷	600	222
2014年11月30日	IT textシリーズ データベース 1版14刷	1200	196
2014年11月30日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報とコンピュータ 1版2刷	300	166
2015年1月20日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報とネットワーク社会 1版3刷	1000	192
2015年1月20日	IT textシリーズ 分散処理 1版3刷	300	228
2015年1月20日	IT textシリーズ アルゴリズム論 1版13刷	900	230
2015年2月20日	IT Textシリーズ データマイニングの基礎 1版7刷	400	286
2015年2月20日	IT textシリーズ 基礎Web技術 1版12刷	500	188
2015年2月20日	IT Textシリーズ(一般教育) 情報システム基礎 1版8刷	500	218
2015年2月20日	IT Textシリーズ 認知インタフェース 1版10刷	300	248
2015年3月20日	IT Textシリーズ 組込みシステム 1版4刷	300	266
2015年3月30日	IT Textシリーズ Java基本プログラミング 1版2刷	400	234

#### 付4. 国際会議一覧

※以下は、2014年度内に終了報告が完了した国際会議

名称	開催年月	場所	参加数	内 海外参加	海外 共催団体
The 17th International Software Product Line Conference (SPLC2013)	2013年8月26日-30日	日本（東京）	164名	98名	---
The 8th International Workshop on Security (IWSEC2013)	2013年11月18日-20日	日本（沖縄）	87名	11名	---

付5. 表彰等 \*いずれも所属（ ）内）は選定当時、掲載は順不同、敬称略

1. 新名誉会員（2名） [2015年度定時総会（2015年6月）表彰] [理事会（2015年1月）]

・村上篤道（早大） ・古川一夫（NEDO）

2. 功績賞（4名） [2015年度定時総会（2015年6月）表彰] [功績賞選定委員会（2015年3月）]

・笈 捷彦（早大） ・齊藤忠夫 ・有川節夫 ・村山優子（岩手県立大）

3. 新フェロー（9名） [2015年度定時総会（2015年6月）表彰] [フェロー選定委員会（2015年2月）]

・石川 裕（理研） 「高性能並列計算機のためのシステムソフトウェア技術に関する貢献」  
 ・上田和紀（早大） 「並行プログラミング言語モデルGHCの提案に始まる言語モデルの先駆的研究および  
 当該分野の研究会再編・研究論文誌創設への貢献」  
 ・鶴林尚靖（九大） 「ソフトウェア工学の研究と大学における実践的PBL教育への貢献」  
 ・奥乃 博（早大） 「音環境理解研究に対する先駆的な貢献と学会業務への貢献」  
 ・笠原博徳（早大） 「自動並列化コンパイラとコンパイラ協調型マルチコアプロセッサ技術に対する貢献」  
 ・椎尾一郎（お茶女大） 「ユビキタスコンピューティング分野における研究に対する貢献」  
 ・西田友是（広島修道大） 「コンピュータグラフィックス分野の創成と基盤技術開発ならびに教育・普及に対する貢献」  
 ・古川一夫（NEDO） 「情報通信産業の発展に対する貢献および学会運営への貢献」  
 ・松本健一（奈良先端大） 「ソフトウェア開発の定量的評価・管理技術に関する研究」

4. 論文賞（11件43名） [2015年度定時総会（2015年6月）表彰] [論文賞選定委員会（2015年2月）]

(1) 情報処理学会論文賞

・密な基地局群の無線相互干渉調停のための空間分割スケジューリング技術 山口弘純、廣森聡仁、東野輝夫（阪大）、  
 梅原茂樹、浦山博史、山田雅也（住友電気工業）、前野 誉（スペースタイムエンジニアリング）、  
 金田 茂（阪大／スペースタイムエンジニアリング）、高井峰生（阪大／カリフォルニア大）  
 ・dePEND：ボールペンの強磁性を利用した手描き補助システム 山岡潤一、笈 康明（慶大）  
 ・有価陶磁器製品に対する人工物メトリクス適用のための研究  
 藤川真樹（総合警備保障）、小田史彦、森安研吾（ウシオ電機）、瀧 真悟（青山学院大）、竹田美和（名大）  
 ・Smith-Watermanアルゴリズムを利用したギャップを含むコードクローン検出  
 村上寛明、堀田圭佑、肥後芳樹、井垣 宏、楠本真二（阪大）  
 ・係り受け木における機械翻訳のための品詞の教師なし学習  
 田村晃裕、渡辺太郎、隅田英一郎（NICT）、高村大也、奥村 学（東工大）

(2) Journal of Information Processing Outstanding Paper Award

・Disaster Information Collection with Opportunistic Communication and Message Aggregation  
 Jovilyn Therese B. Fajardo, Keiichi Yasumoto,  
 Naoki Shibata, Weihua Sun, Minoru Ito (Nara Institute of Science and Technology)

(3) 情報処理学会論文誌 プログラミング 優秀論文賞

・信号装置仕様の検証を通じたBメソッドにおける仕様記述法の検討 寺田夏樹（鉄道総研）

(4) 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用 優秀論文賞

・Twitterにおけるユーザの興味と話題の時間発展を考慮したオンライン学習可能なトピックモデルの提案  
 佐々木謙太郎、吉川大弘、古橋 武（名大）

(5) 情報処理学会論文誌 データベース 優秀論文賞

・アウトオブオーダ型クエリ実行に基づくプラグイン可能なデータベースエンジン加速機構  
 早水悠登、合田和生（東大）、喜連川優（NII／東大）

(6) 情報処理学会論文誌 コンピューティングシステム 優秀論文賞

・Non-Volatileメインメモリを用いたチェックポイント・リスタートシステム 追川修一（筑波大）、三木 聡（フィックスターズ）

(7) IPSJ Transactions on Computer Vision and Applications Outstanding Paper Award

・Real-time Video Mosaicing using Non-rigid Registration

Rafael Henrique Castanheira de Souza, Masatoshi Okutomi, Akihiko Torii (Tokyo Institute of Technology)

5. 喜安記念業績賞 (4件18名、\*: 代表貢献者) [2015年度定時総会 (2015年6月) 表彰] [喜安記念業績賞選定委員会 (2015年3月)]

- ・「アイデンティティ管理技術の標準化と普及・実用化」  
\*高橋健司、直井邦彰 (NTT)、久米田博、李 焯、永野一郎 (NTTソフトウェア)
- ・「オープンソースソフトウェアによるセキュアな計算機システム実現への貢献」  
\*中村雄一 (日立ソリューションズ)、海外浩平 (NEC)、原田季栄、半田哲夫 (NTTデータ先端技術)、山内利宏 (岡山大)
- ・「社会・産業の発展に寄与する新たな人口統計情報「モバイル空間統計」の実用化」  
\*山口高康、小林基成 (NTTドコモ)、鈴木俊博 (ドコモ・インサイトマーケティング)
- ・「工場部品供給の完全自動化」  
\*堂前幸康、奥田晴久、永谷達也、田中健一、藤田正弘 (三菱電機)

6. 長尾真記念特別賞 (3名) [2015年度定時総会 (2015年6月) 表彰] [長尾真記念特別賞選定委員会 (2015年2月)]

- ・荒川 豊 (奈良先端大) 「人に寄り添うモバイルアプリケーションに関する先駆的かつ実証的研究」
- ・高橋健太 (日立) 「安全・安心・便利な社会を実現するバイオメトリクス・セキュリティ技術の研究開発」
- ・保木邦仁 (電通大) 「思考型ゲームにおける高精度評価関数の設計及び人工知能の開発」

7. 山下記念研究賞 (52編) [第77回全国大会 (2015年3月) 表彰] [各領域委員会 (2014年7月)]

<コンピュータサイエンス領域>

- ・大規模時系列データからの特徴自動抽出 [データベースシステム] 櫻井保志 (熊本大)
- ・2-Hop ラベルの直接的な計算によるグラフ最短経路クエリ処理の効率化 [データベースシステム] 秋葉拓哉 (東大)
- ・ソフトウェア要求仕様書の第三者インスペクション方法論とその実践評価 [ソフトウェア工学] 斎藤 忍 (NTTデータ)
- ・Smith-Watermanアルゴリズムを利用したギャップを含むコードクローン検出 [ソフトウェア工学] 村上寛明 (阪大)
- ・高次元トポロジ NoC の配線長最小化手法 [計算機アーキテクチャ] 藤原一毅 (NII)
- ・Triple-helix Writeback: Reducing Inner-Bankgroup Contention in DDR4 SDRAM Memory System [計算機アーキテクチャ] 細川航平 (マイクロソフトデベロップメント)
- ・GPUの完全仮想化 [システムソフトウェアとオペレーティング・システム] 鈴木勇介 (慶大)
- ・適応的速度制御における連続時間マルコフ過程を用いた故障発生時間評価手法 [システムとLSIの設計技術] 飯塚翔一 (阪大)
- ・2相ハンドシェイクプロトコル非同期式回路向けマルチクロック・マルチエッジトリガ・フリップフロップの提案 [システムLSI設計技術] 今井 雅 (弘前大)
- ・メニーコア・プロセッサにおける動的スレッド数切替え手法 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 福本尚人 (富士通研)
- ・不揮発性メモリを用いたHybrid-BFSアルゴリズムの最適化と性能解析 [ハイパフォーマンスコンピューティング] 岩淵圭太 (東工大)
- ・パケットラックによる正規表現マッチングの時間計算量線形性判定 [プログラミング] 杉山 聡 (野村総研)
- ・データ研磨によるクリーク列挙クラスタリング [アルゴリズム] 宇野毅明 (NII)
- ・Twitterにおけるユーザの興味と話題の時間発展を考慮したオンライン学習可能なトピックモデルの提案 [数理モデル化と問題解決] 佐々木謙太郎 (名大)
- ・適応型スケジューリングによる平均応答時間の短縮法-実行時間見積り方法の影響- [組込みシステム] 田中清史 (北陸先端大)

<情報環境領域>

- ・ストレージ・ネットワークの直接転送エンジンを備えたSSDキャッシュサーバの提案 [マルチメディア通信と分散処理] 後藤真孝 (東芝)
- ・端末状態の監視により端末利用状況に合わせたCPU周波数制御を行う携帯端末向け省電力手法 [マルチメディア通信と分散処理] 野呂正明 (富士通研)
- ・選択肢ログ: 意志決定支援のための選択を対象としたライフログ [ヒューマンコンピュータインタラクション] 小山純平 (京都工繊大)
- ・流体の流れ場のインタラクティブなデザイン [グラフィクスとCAD] 佐藤周平 (北大)
- ・イラストスタイルの認知的分類に基づく識別モデルの構築 [グラフィクスとCAD] 栗山 繁 (豊橋技科大)
- ・ソーシャルメディアにおける情報伝播ネットワークの可視化とアプリストアに与える影響についての統計的解析 [情報システムと社会環境] 細江成洋 (Sky)
- ・確率的訪問POI分析: 時空間行動軌跡からのユーザモデリング [グループウェアとネットワークサービス] 西田京介 (NTTレゾナント)
- ・解像度を維持するBullet Timeの生成と評価 [グループウェアとネットワークサービス] 坂本竜基 (ヤフー)
- ・統合利用を目的とした地域史資料のLOD化 [デジタルドキュメント] 奥野 拓 (はこだて未来大)



- ・カメラ間通信を用いた無線マルチビューストリーミングの検討 [モバイルコンピューティングとユビキタス通信] 小寺志保(静岡大)
- ・HASC-IPSC: 屋内歩行センシングコーパス [モバイルコンピューティングとユビキタス通信] 梶 克彦(名大)
- ・並列Gauss Sieveアルゴリズムを用いた128次元イデアル格子の最短ベクトル問題の求解 [コンピュータセキュリティ] 石黒 司(KDDI研)
- ・SNS上のプライバシーセンシティブ情報の漏洩検知に基づく公開範囲の設定方式 [コンピュータセキュリティ] 町田史門(総研大)
- ・案内サインを活用した駅構内ナビゲーションシステムの開発と評価 [高度交通システムとスマートコミュニティ] 日高洋祐(JR東日本)
- ・途上国における予防医療を実現するポータブルヘルスクリニックシステムの構築 [ユビキタスコンピューティングシステム] 野原康伸(九大)
- ・動作・人物・場所情報の超音波を用いた音声データへの埋め込み手法 [ユビキタスコンピューティングシステム] 渡邊拓貴(神戸大)
- ・SAML連携を行うPAMに基づくSSO認証対応Webメールシステムの開発 [インターネットと運用技術] 大谷 誠(佐賀大)
- ・mod\_mrubby: スクリプト言語で高速かつ省メモリに拡張可能なWebサーバの機能拡張支援機構 [インターネットと運用技術] 松本亮介(京大)
- ・暗号技術の信頼情報を提供するクライアント側機構とユーザインタフェースの提案 [セキュリティ心理学とトラスト] 金岡 晃(東邦大)
- ・ポリシーベース電力制御のためのスマートタップの設計と実装 [コンシューマデバイス&システム] 森本尚之(京大)
- ・短編3DCGアニメーション“Fossil Tears -融心石-” [デジタルコンテンツクリエイション] 牧奈歩美(神奈川工科大)

<メディア知能情報領域>

- ・日本語述語項構造アノテーションに関する諸問題の分析 [自然言語処理] 松林優一郎(東北大)
- ・Smart Access Vehiclesの社会実装シミュレーションを通じた分析と実証— [知能システム] 小柴 等(文部科学省)
- ・部分空間法の応用と魅力 [コンピュータビジョンとイメージメディア] 堀田政二(東京農工大)
- ・焦点距離の異なる複数パターンを投影可能なプロジェクタによるDepth from Defocus手法 [コンピュータビジョンとイメージメディア] 益山 仁(鹿児島大)
- ・PenFlowchartによるプログラミング導入教育の評価 [コンピュータと教育] 中西 渉(名古屋高校)
- ・「LINE外し」ロールプレイングによる情報社会に参画する態度の育成 [コンピュータと教育] 中野由章(神戸市立科学技術高校)
- ・日付を表す文字列の解釈と暦の変換— 暦に関する統合基盤の構築に向けて [人文科学とコンピュータ] 関野 樹(総合地球環境学研)
- ・ピアノの両手運指モデルによる合奏曲のピアノ用自動編曲手法 [音楽情報科学] 中村栄太(NII)
- ・連続励起振動楽器を対象とした音量軌跡のダイナキクスとアーティキュレーションへの分解法 [音楽情報科学] 小泉悠馬(NTT)
- ・生成型アプローチによるLatent Words Language ModelのN-gram近似 [音声言語情報処理] 増村 亮(NTT)
- ・3Dプリンタの法的問題序説 [電子化知的財産・社会基盤] 須川賢洋(新潟大)
- ・生物学的制約の導入による「人間らしい」振る舞いを伴うゲームAIの自律的獲得 [ゲーム情報学] 藤井叙人(関西学院大)
- ・lapillus bug: 音響浮揚による粒子の空中移動制御とインタラクション [エンタテインメントコンピューティング] 河野通就(慶大)
- ・COMP\*PASS: 実世界での図形のコピー&ペーストを可能にするコンパスの拡張 [エンタテインメントコンピューティング] 中垣 拳(慶大)
- ・動力学因果モデリングにおける神経スパイク交差コレログラム解析について [バイオ情報学] 大羽成征(京大)
- ・SDNによるネットワーク構築実習における分散型実習環境管理システムの開発 [教育学習支援情報システム] 牛込翔平(ネットワンシステムズ)

8. 大会優秀賞・大会奨励賞

[第77回全国大会 (2015年3月) 表彰] [第76回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞選定委員会]

(1) 大会優秀賞 (5名)

- ・稲葉利江子 (津田塾大)
- ・北上真二 (早大)
- ・須賀祐治 (IIJ)
- ・萩谷俊幸 (KDDI研)
- ・望月敬太 (京大)

(2) 大会奨励賞 (14名)

- ・東 宏樹 (防災科技研)
- ・小松佑人 (日立)
- ・鈴木健一 (農工大学)
- ・村田真悟 (早大)
- ・大谷拓也 (岩手県立大)
- ・佐々木謙太郎 (名大)
- ・高橋慶多 (横浜国大)
- ・山尾創輔 (東北大)
- ・小篠耕平 (神戸大)
- ・澤 菜々美 (関西学院大)
- ・日比野歩 (愛知教育大)
- ・北村優汰 (名工大)
- ・鈴木恵介 (東大)
- ・前川裕一 (はこだて未来大)

## 9. 教育賞

[2015年度定時総会 (2015年6月) 表彰] [情報処理教育委員会 (2015年3月)]

## (1) 優秀教材賞 (1件)

- ・松山泰男 (早大) 「生命情報処理とICTを橋渡しする教材: バイオインフォマティクスin silico」

## 10. 若手奨励賞 (12件)

[当該コンテストにて表彰] [若手奨励賞選定委員会 (2014年4月~2015年3月)]

## &lt;第20回スーパーコンピューティングコンテスト (2014年8月) &gt;

- ・チーム MamaGoto 伊藤圭佑, 西村礼恩 (大阪府立大工業高専)

## &lt;第25回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2014年10月) 課題部門&gt;

- ・つながってタワー-津波避難タワー間を結ぶ安心防災システム- 佐々木 渉, 島内 良章, 南 光成, 森國 健吾 (高知高専)

## &lt;第25回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2014年10月) 自由部門&gt;

- ・すくえあ 金子 高大, 瀧下 祥, 東山 幸弘, 山崎 啓太, 山下 昂太 (香川(詫間)高専)

## &lt;第25回全国高等専門学校プログラミングコンテスト (2014年10月) 競技部門&gt;

- ・パズドラ! -パズル・トライアル- 内田 啓太, 青木 勢馬, 岸本 啓太 (大阪府大高専)

## &lt;ETロボコン2014 プログラミング部門 (2014年11月) &gt;

- ・「壺川モーターズ」 嶺井 亮太, 屋良 朝也, 他1名 (国際電子ビジネス専門学校)

## &lt;パソコン甲子園2014 プログラミング部門 (2014年11月) &gt;

- ・「-273.15°C」 隈部 壮, 増田 隆宏 (筑波大学附属駒場高)
- ・「Is」 伊佐 碩恭, 井上 卓哉 (開成高)
- ・「三上」 奥村 真司, 岩井 龍之介 (灘高)

## &lt;パソコン甲子園2014 モバイル部門 (2014年11月) &gt;

- ・「きゃらめるぶでいんぐ」 生田 輪太郎, 春木 竜聖, 島袋 瑞樹 (沖縄工業高専)

## &lt;第14回日本情報オリンピック (2015年3月) &gt;

- ・高谷悠太 (開成中) ・増田隆宏 (筑波大学附属駒場高) ・河原井啓 (筑波大学附属駒場中)

## 11. 学会活動貢献賞/感謝状

[2015年度定時総会 (2015年6月) 表彰] [総務財務運営委員会 (2015年1月)]

## (1) 学会活動貢献賞: 「学会誌における編集業務への貢献」 (1名)

- ・松崎公紀 (高知工科大)

## (2) 学会活動貢献賞: 「論文誌への査読貢献」 (3名)

- ・樫山淳雄 (東京学芸大) ・岡本栄司 (筑波大) ・竹森敬祐 (KDDI研)

## (3) 学会活動貢献賞: 「デジタルプラクティスへの査読貢献」 (1名)

- ・峯 恒憲 (九州大学)

## (4) 学会活動貢献賞: 「教員免許講習会業務への貢献」 (3名)

- ・久野 靖 (筑波大) ・辰己丈夫 (放送大) ・中山泰一 (電気通信大)

## (5) 学会活動貢献賞: 「情報セキュリティ分野の研究者・実務者コミュニティの設立・発展への貢献」 (3名)

- ・寺田真敏 (日立) ・秋山満昭 (NTT) ・畑田充弘 (NTT コミュニケーションズ)

## (6) 学会活動貢献賞: 「小中学生のための情報科学教室開催への貢献」 (1件)

- ・近畿大学理工学部情報学科

## (7) 学会活動貢献賞: 「学術講演の動画中継・アーカイブ活動を通じた学会への貢献」 (1名)

- ・坂本大介 (東大)

## (8) 感謝状 (2名)

- ・川合 慧 (放送大) ・平田圭二 (はこだて未来大)

## (9) 感謝状: 「学術コンテンツの配信による学術研究の推進と社会への貢献」 (2名)

- ・川上量生 (ドワンゴ) ・杉本誠司 (ニワンゴ)

## (9) 感謝状: 「論文誌編集業務への貢献」 (4名) \*表彰は論文誌編集委員会

- ・井口 寧 (北陸先端大) ・鈴木幸太郎 (NTT) ・藤井秀樹 (東大) ・吉高淳夫 (北陸先端大)

## &lt;北海道&gt;

- (1) 研究奨励賞 (5名) ・エバンズ ベンジャミン ルカ ・古川真衣 ・浅井俊行  
 ・友広歩李 ・上田健太郎
- (2) 学術研究賞 (1件) ・小田川玲奈、竹川佳成、平田圭二
- (3) 技術研究賞 (2件) ・奥寺将至、渡邊真也  
 ・渡邊宏尚、土田 菜、林 秀彦、皆月昭則
- (4) ポスター賞 (4名) ・小野寺駿 ・池田絵里 ・本間朝博 ・宮澤初穂
- (5) 工業高専奨励賞 (3名) ・山口俊太郎 ・荒木 毅 ・小林良平

## &lt;東北&gt;

- (1) 学生奨励賞 (15名) ・小田桐真人 ・久我元士 ・佐藤翔平 ・石島 樹 ・沼倉彬雄  
 ・紺野良太 ・上野 洋 ・逢坂美冬 ・渡邊琢磨 ・伊藤修平  
 ・佐藤友昭 ・守屋周祐 ・酒寄皓平 ・添田知宏 ・渡部 壮
- (2) 奨励賞: 5 名程度
- (3) 野口研究奨励賞: 1 名程度

## &lt;東海&gt;

- (1) 電気関係学会東海支部連合大会奨励賞他受賞者 (12名)  
 ・伊藤圭亮 ・中西健人 ・桐ヶ谷慧 ・伊美裕麻 ・向井洋介 ・山田貴之  
 ・村上一樹 ・早瀬光浩 ・中野克哉 ・河 地玄 ・渡邊正人 ・西脇雅幸
- (2) 学生論文奨励賞 (8名)  
 ・上醉尾一真 ・近藤菜々子 ・清水皓平 ・高橋 淳 ・高比良諭 ・中村暢宏  
 ・橋本高志良 ・松井雪治

## &lt;北陸&gt;

- (1) 優秀論文発表賞 (6名) ・赤崎翔太 ・阿部拓真 ・鷹箸孝典 ・櫻井壯達 ・山北将平 ・山本裕玄
- (2) 優秀学生表彰 (12名) ・馬場悠太 ・恩田航佑 ・今田典文 ・西原弘真 ・池田光晴 ・平谷拓也  
 ・向井結唯 ・浅井大輝 ・久世達哉 ・淵上朋也 ・高野浩暉 ・毎原雄介

## &lt;関西&gt;

- (1) 学生奨励賞 (6名) ・竹林 陽 ・三宅大樹 ・多良康孝 ・町田雄一郎 ・山本湧輝 ・濱村朱里

## &lt;中国&gt;

- (1) 優秀論文発表賞 (5名) ・芦塚正雄 ・岡田雄揮 ・岡部裕介 ・島田英之 ・Shahidatul Sadiah
- (2) 奨励賞 (11名) ・泉倉大地 ・荻野真奈美 ・小田敬子 ・諏訪下敦規 ・瀬藤 諒  
 ・竹腰祐輝 ・塔 娜 ・鍋田敬寛 ・品川和哉 ・松尾雄二 ・松本 凌
- (3) 30周年記念賞  
 功労者表彰 (6名) ・開内幸治 ・鈴木貢 ・北村俊明 ・川端英之 ・三池秀敏 ・長篤志  
 論文貢献賞 (3名) ・山内利宏 ・岡山聖彦 ・神崎映光  
 連合大会発表貢献賞 (2組) ・餘利野直人、造賀芳文 ・船曳繁之  
 企業貢献賞 (4社) ・NECソリューションイノベータ(株) ・マツダ(株) ITソリューション本部  
 ・パナソニック アドバンステクノロジー(株) ・(株) コア 中四国カンパニー

## &lt;四国&gt;

- (1) 学生奨励賞 (2) 四国支部奨励賞

## &lt;九州&gt;

- (1) 奨励賞-連合大会 ・田中哲士 ・田中瑠子 ・森山賀文 ・柿本由気 ・矢羽田優輝
- (2) 奨励賞-火の国シンポ ・田淵直樹 ・三重野琢也 ・上原太一 ・八神貴裕 ・松井一乃
- (3) 奨励賞-若手の会 ・江藤 宏

- (1) 情報処理技術遺産 (7件) ※ ( ) 内は製造者、製造年
- ・ UNIVAC120 (レミントン・ランド社、1954年)
  - ・ HITAC 301部品 (株) 日立製作所、1957年)
  - ・ HITAC 3010 (株) 日立製作所、1962年)
  - ・ PDP-8/I (Digital Equipment Corporation、1971年頃)
  - ・ PANAFACOM C-15E (パナファコム株式会社 (現 (株) PFU)、1979年)
  - ・ 紙幣還流型現金自動預払機 AT-100 (沖電気工業 (株)、1982年)
  - ・ FACOM 6715D (富士通 (株)、1993年)

## 14. デジタルプラクティスアワード (1件1名) [ソフトウエアジャパン2015 (2015年2月) 表彰] [デジタルプラクティス編集委員会]

- ・ 北九州スマートコミュニティ創造事業ー日本初の本格的ダイナミックプライシング社会実証ー  
荒牧敬次、岩野和生 (北九州スマートコミュニティ推進機構)

## 15. ソフトウエアジャパンアワード (2名) [ソフトウエアジャパン2015 (2015年2月) 表彰]

- ・ 藤田智成 (日本電信電話) 「オープンソースソフトウェアの開発とグローバル展開及び実用化」
- ・ 江木聡志 (楽天) 「パターンマッチ指向プログラミング言語Egisonの設計・開発」

## 16. FIT関連の各賞 [FIT2014 (2014年9月) 表彰] [FIT推進委員会]

- (1) FIT2014 船井業績賞 (1名) ※船井情報科学振興財団主催
- ・ 辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア)
- (2) FIT2014 船井ベストペーパー賞 (3件) ※船井情報科学振興財団主催
- ・ FPGA によるブレ補正機構に関する研究 丸山裕士、山口佳樹、児玉祐悦 (筑波大)
  - ・ 架空名義操作不可能な再配分メカニズムの特徴付け 鶴田俊佑、岡 雅晃、東藤大樹、櫻井祐子、横尾 真 (九大)
  - ・ 瞬目種類識別のための形状特徴量に関する一検討  
松野省吾 (電通大)、大山 実 (東京電機大)、阿部清彦 (関東学院大)、大井尚一 (東京電機大)、板倉直明 (電通大)
- (3) FIT2014 論文賞 (2件)
- ・ 予備系システムのダウンサイジング手法及び評価 市原利浩、原田篤史、樋口 毅 (三菱電機)
  - ・ 多品種対応ドメインを用いたモデル駆動開発の実現 根路銘崇 (電通大/日本IBM)、沼尾雅之 (電通大)
- (4) FIT2014 ヤングリサーチアワード (7名) ※FIT2015 (2015年9月) 表彰
- ・ 杉本洋輝 (工学院大) ・ 比嘉恭太 (NEC) ・ 生田寛和 (北大) ・ 須藤 匠 (秋田県大)
  - ・ 延 優介 (慶大) ・ 田中哲士 (九州先端科技研) ・ 土田 葉 (釧路公大)

## 17. 情報規格調査会関連の表彰

- (1) 標準化功績賞 (3名) [情報規格調査会総会 (2014年5月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・ 石崎 俊 (慶応義塾大) ・ 竜田敏男 (情報セキュリティ大学院大) ・ 守谷健弘 (NTT)
- (2) 標準化貢献賞 (10名) [情報規格調査会総会 (2014年5月) 表彰] [情報規格調査会]
- ・ 小川茂孝 (ICT-Link) ・ 北野敏明 (新日鉄住金ソリューションズ株式会社) ・ 野村茂豊 (日立)
  - ・ 半谷精一郎 (東京理科大) ・ 平田謙次 ・ 松尾真一郎 (NICT) ・ 村上隆史 (パナソニック)
  - ・ 山本 知 (日立) ・ 渡邊 創 (産総研) ・ 吉岡稔弘
- (3) 国際規格開発賞 (10名: 13件) [情報規格調査会 技術委員会 表彰] [情報規格調査会]
- ・ 赤平信夫 (パナソニック) ・ 石川俊一 (コンピュータソフトウェア協会・アシュリオン・ジャパン) ・ 柏木俊行 (ソニー)
  - ・ 込山俊博 (NEC・3件) ・ 新崎 卓 (富士通研究所) ・ 鈴木輝彦 (ソニー・2件) ・ 永井 裕 (日立)
  - ・ 服部しのぶ (元ソニー・現FOX) ・ 平田謙次 ・ 横川文彦 (パイオニア)
- (4) 工業標準化事業表彰 [工業標準化表彰式 (2014年10月) 表彰] [経済産業省]
- ・ 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰: ソニー
  - ・ 国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 池ノ谷由紀子 (元 ITSCJ)
  - ・ 国際標準化貢献者表彰 (産業技術環境局長表彰): 山田 淳 (東芝)
  - ・ 国際標準化奨励者表彰 (産業技術環境局長表彰): 石川孝明 (早稲田大)
  - ・ 国際標準化奨励者表彰 (産業技術環境局長表彰): 志水信哉 (NTT)
  - ・ 国際標準化奨励者表彰 (産業技術環境局長表彰): 蝶野慶一 (NEC)

---

---

## その他および附属明細書（法定記載事項）

---

---

1. その他、内部統制の整備についての決議に該当はありません。
2. その他、事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

以上